

平成24年度（2012年度）

情報活用能力育成の あり方に関する研究

平成23年度は箕面市教育センターの教育研究の一項目として、「授業力向上のためのICT活用に関する研究」を挙げ、「授業力向上のためにICT機器をどう活用するか」、「児童・生徒の情報活用能力をどのように向上させるか」について研究を行った。

本年度は「児童・生徒の情報活用能力をどのように向上させるか」に研究の目的を絞り実践的研究を行った。

〈研究員〉

福田 早織	箕面市立箕面小学校	吉村 淳史	とどろみの丘学園 (箕面市立止々呂美小学校)
小谷 周平	箕面市立萱野小学校	上野 広司	彩都の丘学園 (箕面市立彩都の丘小学校)
西田 俊治	箕面市立北小学校	苗村 健	箕面市立第一中学校
平松 真咲	箕面市立南小学校	中野 淳	箕面市立第二中学校
美馬 香里	箕面市立西小学校	天岸 大輔	箕面市立第三中学校
瀬村 ゆり	箕面市立西小学校	佐藤 隆彦	箕面市立第四中学校
川崎 和子	箕面市立東小学校	上山 佐弥佳	箕面市立第五中学校
大西 諒	箕面市立東小学校	塩田 和也	箕面市立第六中学校
江見 あゆみ	箕面市立西南小学校	山室 学	箕面市立第六中学校
田中 孝弘	箕面市立萱野東小学校		
井田 淳子	箕面市立豊川北小学校		
喜多村 忠輝	箕面市立中小学校		
三宅 美典	箕面市立豊川南小学校		
丸山 智美	箕面市立萱野北小学校		

〈スーパーバイザー〉

園田学園女子大学 未来デザイン学部 堀田博史 教授

はじめに

箕面市では平成21年度末に小中学校のコンピュータ教室のコンピュータを全台更新し、同時に電子黒板や実物投影機等のICT機器を多数導入することによりICT環境の整備を行った。また平成22年度から平成23年度の教育研究においては、教師の授業力向上のためにICT機器をどう活用するかを主な目的として研究を行ってきた。

昨年度までの研究の成果として、教員のICT機器を利用した授業力の向上が一定図れており、本年度は、児童・生徒の情報活用能力をどのように向上させるかに主眼を移して研究を行うこととした。

I 研究テーマの設定について

「情報活用能力育成のあり方に関する研究」

- ・児童・生徒の情報活用能力をどのように向上させるか
- ・情報活用能力育成のためのカリキュラムの作成

II 研究の方法

スーパーバイザーとして園田学園女子大学の堀田博史教授に年間を通してご指導いただきながら、次のように研究を行った。

III 研究内容

<第1回 6月20日>

- ・今年度の研究の流れを確認
- ・情報活用能力育成のあり方について
- ・情報活用能力育成カリキュラムの作成について

<第2回までに>

- ・既存の各校独自の情報教育カリキュラムの提出

<第2回 7月11日>

- ・各校の情報教育カリキュラムと実践の交流
- ・情報活用能力育成に効果的な実践の紹介

<第3回 8月24日>

- ・夏季研修として、研究員以外の教員を交え情報教育カリキュラムについて交流
- ・グループワークにより現状や課題、つけるべき能力等について意見交換

<第4回までに>

- ・実践授業を想定した「情報活用能力育成のための指導計画（案）」の作成

<第4回 10月24日>

- ・「情報活用能力育成のための指導計画（案）」の交流
- ・中学校区ごとに実践授業の交流に向けた発表者の決定
- ・発表者以外は、2月までに各自指導案を作成し実践授業を行う

<第5回 12月12日>

- ・指導案の交流

<第6回までに>

- ・指導案（研究紀要用）を作成

<第6回 2月25日>

- ・研究紀要について
- ・年間総括

<中学校区ごとの実践授業>

- ・それぞれのグループ毎に公開授業を行い、公開授業後研究部会を開催

第1・3中学校校区公開授業

西南小学校 江見研究部員 <11月26日>

第2・5中学校校区、止々呂美の森学園公開授業

萱野小学校 小谷研究部員 <2月14日>

第4・6中学校校区、彩都の丘学園公開授業

豊川北小学校 井田研究部員 <1月17日>

【別紙資料】

- ・情報活用能力育成のための授業研学習指導案

IV 研究の結果

①情報活用能力育成カリキュラム案の策定（資料1）

今年度、第一回で情報活用能力育成のあり方や情報活用能力育成カリキュラムの作成について、スーパーバイザー堀田教授にご講演いただき、イメージを持つとともに、各校のカリキュラムを持ち寄り、違いの大きさも認識した。

夏季の研修を兼ねて、研究員や参加者によるワークショップ形式で現在各校で取り組んでいる教材等をカリキュラム枠にはめこむ活動を実施した。この活動を通して、指導要領の方向性でもあるように、情報活用能力の育成をテーマにした学

習は総合的な学習の時間が大きな割合を占めるが、情報の収集、検討、比較、まとめ、発信等、それぞれの段階の基礎や活用は国語を中心に各教科の中で指導が行われていることも共通認識できた。この研究成果をまとめ、文部科学省のカリキュラムを精査し、情報教育推進連絡会でも検討を行い、情報活用能力育成カリキュラム案を作成し、次年度の各学校のカリキュラム策定の参考資料を提供できた。今後、情報活用能力の育成のあり方に関する研究部会や情報教育推進連絡会で実践を通して検討し精査していく予定である。

②指導案モデルの作成（資料2）

また、カリキュラムとともに指導者が実践していく上では、それぞれの教材で情報活用能力の中のどんな力を育成することを目標にしているのかを明確にするとともに、それを授業の中で具体的に実践する上で、単元計画デザインを考えていく必要がある。そのために、先進的な実践事例を参考に検討する中で、情報活用の段階を次の6段階のわかりやすいことばで示すことで、各段階の授業の目標を明確ができると考え、本年度に実践に活かしていった。当然ながらすべての単元でこの6段階が構成されるのではなく、教材の内容や子どもの実態、段階によって、3段階や4段階を取り出しての実践があることも確認した。

情報活用能力の分類	内容
あつめる	様々なメディアや人からの情報収集能力
とらえる	情報の選択・分析
まとめる	情報の加工と編集
伝える	目的や意図に応じて、様々な形でプレゼンテーションする
交流する	人と対話し練り上げる
振り返る	自分の情報活用について振り返る

また、この「あつめる」「とらえる」「まとめる」「伝える」「交流する」「振り返る」は、授業デザインとしての段階としても活用できることを確認した。

課題は、次の2点をあげる。

①情報活用能力を育成することの必要性の認識を全体化すること

児童生徒の生きる社会は、より高度情報化されていくことは明白である。そこでは情報活用能力の差が就職や収入にも大きな影響を与える可能性があること、情報の活用の仕方でも生き方にも影響を与えることがあるため、世界も国も調査をしながら研究をしていることを知り、研究員においては、この認識を持ち実践してきている。この認識を広げ、本市の全体へ広げていく必要がある。国際成人力調査や情報活用能力の全国調査などの情報を周知しながら意識形成を図っていくことが肝要である。

②各学年で育成する情報活用能力を明確にすること

箕面市全体のカリキュラムを基本に、1年生から9年生（中3）まで、系統的に育成する各学年終了時の情報活用能力を明確にし、そのスキルが活用できるのかをきちんとテストして、確実に身に付けていく必要がある。取り組みは違ってよいが、育成する情報活用能力はどの学校でも同じである。

来年度の研究で、カリキュラムの精緻化と育成する情報活用能力の明確化、その段階的育成方法、また、スキルが確実に育成されたのかを量る方法等を研究していく必要がある。

V 研究のまとめ

スーパーバイザー 園田学園女子大学 教授 堀田博史

2012年度の箕面市教育センター教育研究テーマは、「情報活用能力育成のあり方に関する研究」です。ますます注目される児童・生徒の情報活用能力の育成について、意識を高めるねらいがあります。2011年度の本寄稿の一部「児童・生徒の情報活用能力を意識した授業デザイン」で、私は以下のように述べました。

今後、学校全体で教科に偏ることなく情報活用能力を育む場面を抽出して、児童・生徒にどのような場面でどのような情報活用能力を育むことができているか、授業デザインや学習指導を整理する必要があります。

現在、先生方の所属されている学校で系統的に情報活用能力が育成されているでしょうか？ 文部科学省は『教育の情報化ビジョン』の中で、21世紀を生きる子どもたちに求められる力として、情報活用能力の育成を以下のように掲げています。

(http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/23/04/_icsFiles/afieldfile/2011/04/28/1305484_02_1.pdf 参照)

情報活用能力を「必要な情報を主体的に収集・判断・処理・編集・創造・表現・発信・伝達できる能力等。生きる力に資する。」とまとめるとともに「情報活用能力を確実に身に付けることは基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着とそれを活用して行う言語活動の基盤となるものであるとし、ICTの操作スキルにとどまらず、情報の適切な活用や情報社会の在り方に関する知識情報モラルなど広範な能力・態度で構成されているとともに、広くあらゆる教科等の指導において育成することが求められている。」としています。

情報活用能力は、操作スキルだけを指すのではなく、生きる力・言語活動と連動して、各教科で育成すべきである、と要約できます。よって、先生方の所属されている学校で、系統的に情報活用能力が育成される必要があるのです。

それでは、各校で情報活用能力を抽出して整理する方法について、2012年度夏の研修会で実施しました内容をもとに解説します。ぜひ、この方法を活用して、所属校で校内研修会を実施、情報活用能力の育成について全教員で取り組まれることを期待しています。

研修会では、市内の小・中学校の先生方20数名が4～5名のグループに分かれて作業をします。そのために、表1の枠組みで情報活用能力を抽出する模造紙を準備しました。模造紙には、情報活用能力の3つの観点、A情報活用の実践力と操作では、(A1)情報手段を適切に活用する力（基本操作等）、(A2)情報の収集と加工、(A3)情報の分析、(A4)情報の発信、(A5)問題解決 に分類されています。B情報の科学的な理解では、(B1)人間の情報処理特性と情報のデジタル化、(B2)コンピュータの仕組み、(B3)情報ネットワークとセキュリティ技術 に分類されています。C情報社会に参画

する態度では、(C1)情報・メディアに対する態度、(C2)情報社会における規範（情報モラル）に分類されています。

表1 箕面市情報教育カリキュラム枠（案）

A 情報活用の実践力と操作		○学年	○学年	○学年
	情報手段を適切に活用する力（基本操作等）			
	情報の収集と加工			
	情報の分析			
	情報の発信			
	問題解決			
B 情報の科学的な理解				
	人間の情報処理特性と情報のデジタル化			
	コンピュータの仕組み			
	情報ネットワークとセキュリティ技術			
C 情報社会に参画する態度				
	情報・メディアに対する態度			
	情報社会における規範（情報モラル）			

まず、個人で付箋に「～できる」のような規準風の書き方で情報活用能力を抽出して、模造紙の枠組みに貼り付けていきます。次に、グループ毎に貼られた付箋の内容の重なりや枠組みの項目間移動を行い、整理します。研修は時間が限られていますので、ここで終了しました。グループ毎に、情報活用能力が整理され、育むべき情報活用能力が見えてきました。

その後、校内研修会では、抽出された情報活用能力の項目に対応した具体的な教科・単元・学習内容を書き出し、全教員で共有して、系統的な情報活用能力の表が完成します。

次に、完成した系統的な情報活用能力の表から、どのように指導案に具体化するかについて説明します。2012年度の研究員の先生方が作成した指導案では、情報活用能力育成のための指導計画（案）で指導計画全何時間中に、どのような情報活用能力を育むかを、以下の分類に従って記載する欄が設けられています。

- (1) あつめる／様々なメディアや人からの情報収集能力
- (2) とらえる／情報の選択・分析
- (3) まとめる／情報の加工と編集
- (4) 伝える／目的や意図に応じて、様々な形でプレゼンテーションする
- (5) 交流する／人と対話し練り上げる

(6) 振り返る／自分の情報活用について振り返る

指導計画で、必ず(1)～(6)の項目に当てはまる内容があるとは限りません。しかし、この分類に従って、指導計画を記載することで、多くの単元で「あつめる・とらえる・まとめる・伝える・交流する・振り返る」の活動が組み込まれていることを再認識できます。

最後に、指導計画で記載した情報活用能力の分類が、系統的な情報活用能力の表のどの部分と対応するか、を年間通して考えることで、学校で育成されていない情報活用能力を知ることができます。

2012年度は日程調整ができずに、先生方の授業を拝見できませんでした。しかし、いずれの指導案も情報活用能力の分類がわかりやすくまとめられており、研究員以外の先生方が参考にできる価値あるものになっています。

授業でのICT活用が日常化してきた中で、児童・生徒にどのような情報活用能力をどの学年で育むのかを、学校のすべての教員が意識できれば、今後のICT環境の変化にも順応できる子どもが育つと思います。

おわりに

1年間の研究で、情報活用能力について課題や手法を抽出、分類することにより、箕面市版の情報活用能力育成カリキュラム案の作成を行い、また研究員各自が情報活用能力の育成を意識した指導案を作成し実践授業を行うことにより、情報活用能力の育成のあり方について研究を重ねた。

来年度は、箕面市版情報活用能力育成カリキュラムの精緻化と育成する情報活用能力の明確化、その段階的育成方法、また、スキルが確実に育成されたのかを量る方法等を研究していきたい。

	小学校			中学校	
	低学年	中学年	高学年		
A 情報活用 の実践力と操作	情報手段を適切に活用する力 (基本操作等)	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピューター、ソフトの起動、終了する (ID・パスワードの入力) ・ローマ字入力で、漢字変換をしながら入力し、簡単な (50文字以内) 文章作成をする ・3年生からタッチタイピングで入力練習をする ・簡単なフォルダ操作をする。(名前をつける、データの保存、データをコピー、ファイル整理など) ・調べ学習でブラウザの使用方法を知り、必要な情報をWebページから見つけることができる ・メモリーカードやデジタルカメラで画像や動画を記録し、コンピュータ内に取り込む ・マウスを使って図形を描き、移動や変形を行う ・必要な情報をプリンターで適切に印刷する 	<ul style="list-style-type: none"> ・長い文章 (約400文字) をタッチタイピングで入力する ・ワープロや描画ソフトの中で、データのコピー、切り取り、貼り付けを行う ・コピー&ペースト (コピーと貼り付け) をキーボードショートカットキー (CTRL+CとCTRL+V) でできる ・目的に応じてフォルダ内のファイル一覧の表示方法を変更し、ディレクトリ構造をたどってファイルを見つける ・デジタルカメラやデジタルビデオカメラで画像や動画を記録し、コンピュータに取り込む ・プレゼンテーションソフト等で文章や写真をレイアウトし、数枚のスライドを作成する ・表計算ソフトを利用して情報を表やグラフにまとめ、整理し、情報の特徴を分かりやすく示す 	<ul style="list-style-type: none"> ・ある程度の速さ (10分400字) で漢字かな混じりの文章をタッチタイピングで入力できる ・複数のソフト間でデータのコピー、切り取り、貼り付けを行う ・フォルダの階層構造を考慮してファイルの整理や管理ができる ・目的に応じて検索サイトのサービス (路線・地図・画像など) を使い分ける ・文字の大きさや色違い、画像の配置などレイアウトを工夫してわかりやすいWebページ、プレゼンテーション資料、簡単なアニメーションなどを作成し、自分の考えを発信できる ・計測と制御のための基本的なアルゴリズムを知りプログラミングを体験する ・表計算ソフトを利用してデータベースを作成する 	
	情報の収集	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な人やいろいろな人から情報を集める ・体験学習を通して情報を集める ・多くの情報の中から似ているものや違うものを見つけて出す 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の知りたいことをはっきりさせて質問し、相手の話を整理しながら聞く ・メモを見ながら、質問事項をインタビューする ・印刷物・放送・映像などのメディアから情報を集める ・多種多様な情報収集手段があることを知る ・図書館司書から助言を受けながら必要な資料を見つける 	<ul style="list-style-type: none"> ・図・表・写真・絵やグラフから必要な情報を読み取ることができる ・課題に応じて、多種多様な情報から正確に必要な情報を集める ・調べたい事柄をアンケート形式で質問紙にまとめるなど目的を明確にした準備をして、インタビューする 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の蔵書検索を利用して、目的の情報を集める ・検索したい情報に関連するキーワードの組み合わせをいくつか用意し、その適合性を判断する ・多種多様な情報を収集、比較し、何が事実かを考えながら、正確で多面的な情報を収集する
	情報の分析	<ul style="list-style-type: none"> ・集めた情報の共通点や相違点を話し合い整理する ・二つの事柄を比べ、違いを見つけて違いの理由を考える ・集めた情報を整理・分類し、読み取って分かったことを拾い出す ・整理された短い文章から、全体の内容を読み取る ・絵や図に整理する 	<ul style="list-style-type: none"> ・集めた情報を整理・判断し、まとまりごとに小見出しをつける ・話の要点や流れを、キーワードや図にまとめる ・長い文章や音声から箇条書きするなどして内容の要点をまとめる ・複数の情報や図・写真・実物を比較し、共通点・相違点を見つけて必要 (適切) な情報を判断する ・二つの条件を満たすものがどれであるかを見つける 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の観点から情報まとめ、規則性を見つけから整理分析する ・読み取った情報の共通点を見つけ、信憑性も確かめる ・情報を因果関係や相関関係、利害関係など関連付けてまとめる 	
	情報の発信	<ul style="list-style-type: none"> ・前方やみんなの顔を見て、よい姿勢で、大きな声ではっきりと発表する ・より分かりやすく伝える工夫を意識する ・発表のときに絵や写真に適切な題名をつける ・他人の発表をしっかりと聞く ・理由を挙げて意見を述べる 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べた情報と自分の意見を区別して、自分の考えを相手に分かるように表現する ・5W1Hを意識しながら、分かりやすく表現する ・目的に応じた伝え方を考える ・原稿を見ないで発表する ・手振りを入れたり、口調や表情を考えたりして話す ・発表の内容に応じた写真や資料を用意し、発表資料を作成する ・他人の発表を見て良いところと改善点を見つける 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝える形式や構成を考えて、自分の考えをわかりやすく表現する ・情報機器 (プロジェクタ・電子黒板) を活用して、情報を提示する ・聞き手の反応を見ながら話す ・要点をまとめて質問する ・発表時間、目的にあわせて効果的な伝達方法を発表、プレゼンテーション資料を作成する ・他人のプレゼンテーションから良いところを取り入れる ・聞き手の人数に合わせて声の大きさやメリハリ、間の取り方などを工夫して話す 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝える相手を意識して、反応を見ながら分かりやすく自分の言葉で発表する ・表現効果を意識しながら色々なメディアを活用して効果的に発信する ・決められた時間内で、情報をわかりやすく編集して効果的なプレゼンテーションする。 ・質問に的確に回答する
問題解決	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら課題を見つける ・身の回りのことに興味を持つ ・与えられた課題から調べたいことを選び、自分の調べたいことは何かを言う 	<ul style="list-style-type: none"> ・互いに出し合った課題の中から、調べたいものを選ぶ ・自分の身近な問題から課題を考える ・自ら課題を選び計画を立ててその計画をみんなの前で発表する ・調べたい内容に適切なキーワードをつける ・関連資料を集めて読み、自分の考えを深める ・課題について広く意見交換するなどの交流をする ・簡単なアンケートを表やグラフにまとめる ・課題解決の結果を絵や図を入れてまとめ、みんなの前で発表する 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を解決するためのインターネットを使った情報の検索の方法を知る ・自分の意見を持ち、課題を見つけたりする際に、他の人の意見も参考にする ・自ら課題を見つけ、仮説を元に調べる計画を立て、手順を整理する ・立てた計画で課題を解決できるか、実施可能かを検討する ・事実と自分の考えを、区別して発表する ・人と意見を交流し解決方法を考える ・調べた結果を振り返り、新たな課題を見つける 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決の実現可能性を考えて予想し計画を立てる ・情報の新しさを意識し、理論的に情報を読み取り、複数の情報と比較しながら整理・分析・判断する ・異論反論を想定して根拠や効果的な情報構成を考へて準備する ・理論的な構成、見やすさ分かりやすさ、著作権違反していないかなど問題解決に至るまでの計画を振り返る ・意見交流を通してよりよい方法や多様な解決方法を考える 	
B 情報の科学的な理解	人間の情報処理特性と情報のデジタル化 コンピュータの仕組み 情報ネットワークとセキュリティ技術	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワークは個人の世界ではなく、すべて記録の残る公共の世界であることを知る ・伝言ゲームなどを通じ、情報は中継されることで、内容が変化することを体験する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワークの基礎的な概念を知る。 ・サイバー警察などネットワーク社会を管理する法律や人がいることを知る。 ・情報は提供しても元の所有者の手元から無くなる訳ではないことを知る ・デジタルデータの特徴が説明できる (例: 劣化しない、コピーが大量にできる) ・情報の正確さを判断する方法を知る 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全性の面から、情報社会の特性を理解する ・自他の情報の安全な取り扱いに関して、正しい知識を持つ ・健康の面に配慮した、情報メディアとの関わり方を知る ・情報セキュリティの確保のために、基礎的な知識や、対策・対応方法を知る 	
C 情報社会に参画する態度	情報・メディアに対する態度 情報社会における規範 (情報モラル)	<ul style="list-style-type: none"> ・相手への影響を考えて行動する ・自分の情報や他人の情報を大切にすること ・情報の発信や情報をやりとりする場合のルール・マナーを知り、守る ・危険や不適切な情報に出合ったときは、大人に意見を求め、適切に対応する ・情報には誤ったものもあることに気づく ・個人の情報は、他人にもらさない ・健康のために利用時間を決め守る ・認証の重要性を理解し、正しく利用できる ・協力し合ってネットワークを使う 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の他人や社会への影響を考えて行動する ・情報にも自分や他者の権利があることを知り、尊重する ・情報社会でのルール・マナーの社会的意味を知り、遵守できる ・不適切な情報や予測される危険の内容がわかり、避けることに、困ったときは大人に意見を求め、適切に対応する ・情報の正確さを判断する方法を知る ・自他の個人情報や第三者にもらさない ・健康を害するような行動を自制する ・人の安全を脅かす行為を行わない ・不正使用や不正アクセスされないように利用できる ・情報の破壊や流出を防ぐ方法を知る ・ネットワークは共用のものであるという意識を持って使う発信する 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報社会における自分の責任や義務について考え、行動する ・個人の権利 (人格権、肖像権など) を尊重する ・著作権などの知的財産権を尊重する ・違法な行為とは何かを知り、違法だとわかった行動は絶対に行わない ・情報の保護や取り扱いに関する基本的なルールや法律の内容を知る ・トラブルに遭遇したとき、主体的に解決する方法を知る。 ・情報セキュリティの基礎的な知識を身につける。 ・ネットワークの公共性を意識して適切な判断や行動をする 	

第○学年 ○○科学習指導案

() 学校
指導者 ○○○○○

- 1 日時
- 2 学年・クラス (名)
- 3 場所
- 4 研究仮説
情報活用の段階を意識した指導計画を立て、それぞれの段階に応じた具体的手立てを組み込んだ授業を、発達段階に応じて、経年で指導していくことで義務教育終了段階で社会に出ても活用できる情報活用能力の育成が図れるだろう

- 5 授業仮説
情報活用能力の育成のための手立てを記入
○○という具体的手立てを授業に組み込むことで、□□する力の育成が図れるだろう

6 単元名

7 単元設定の理由

- (1) 教材観 学習指導要領との関連 教材の系統 教材に対する認識や理解
- (2) 児童・生徒観 学級集団の実態、気になる子どもの実態 レディネス
※教科・教材と関連させて記述
- (3) 指導観 具体的な指導方法を明確に記入

(1)教材観と(2)児童・生徒観を受けて、仮説を提示

このような特性を持つこの教材(教材観)を指導するにあたって、
このような指導方法(手立て、工夫や配慮)(指導観)を行うことによって、
この子どもたち全員(児童・生徒観)に単元目標を達成させることができるだろう。

8 単元目標

- 9 評価規準
- 4 観点(関心・意欲・態度 思考・判断・表現 技能 知識・理解)
- 国語(関心・意欲・態度 話す・聞く能力 書く能力 読む能力
言語についての知識・理解・技能)
- 算・数(関心・意欲・態度 数学的な(見方や)考え方 表現・処理
知識・理解)
- 体育(関心・意欲・態度 思考・判断 技能 知識・理解)
- 英語(コミュニケーションへの関心・意欲・態度 表現の能力 理解の能力 言語や文化についての知識・理解)

10 指導計画 評価計画（評価の重点化）（取組まない段階は抜き、2段階で取組む場合は追加）

時数	情報活用能力の分類	内容	学習内容（ねらい）	関	考	表	知	評価規準 評価方法
	あつめる	様々なメディアや人からの情報収集能力						
	とらえる	情報の選択・分析						
	まとめる	情報の加工と編集						
	伝える	目的や意図に応じて、様々な形でプレゼンテーションする						
	交流する	人と対話し練り上げる						
	振り返る	自分の情報活用について振り返る						

11 本時の目標

12 本時 評価の観点 評価規準

1つの「評価の観点」について具体的習得目標の設定
（数値及び具体的記述）（可能な限りA層、B層、C層ごとに設定）

13 本時の展開

情報活用能力の分類	教師の発問・指示	(予想)児童・生徒の反応・活動	○指導上の留意点 【評価：評価方法】
あつめる とらえる まとめる 伝える 交流する 振り返る	授業の中でどの段階のところをしているのかを記入。 例えば指導計画のまとめる段階の授業の中にも伝えるや振り返り等あると思います	・A B層の状況の子ども の姿を具体的に示す	○指導・支援の手立てを具体的に明示 ○C層の状況の子どもたちへの手立てを事前に明らかに ○個に応じた指導 個の学習量確保の視点を 【考：ワーク回収・事後】 ※指導と評価の一体化をめざして
	「活動内容」や「学習活動」等を具体的に記述 ※本時の学習課題に迫る中心発問は□で囲む。 ※学習活動には3つの場を入れる 自力活動（一人で課題に向き合う時間の確保） 交流活動（ペア学習、グループ学習、全体交流） 評価活動（自己評価、他者教科等）		

14 板書計画（場の設定）

15 実践授業を終えて成果と課題

情報活用能力育成のための授業研

学習指導案

第1学年 国語科学習指導案

箕面市立箕面小学校
指導者 福田 早織

1. 日時 平成24年11月26日(月)2校時
2. 学年・組 第1学年2組 25名(男子12名 女子13名)
3. 場所 1年2組教室
4. 単元名 じどう車くらべ
5. 単元設定の理由

(1) 教材観

第1学年及び第2学年の「読むこと」領域における目標は、「書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付きながら読むことができるようにするとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる」ことである。これを受けて、本単元では、「自動車の仕事と作りの関係に興味を持って読み、ほかの自動車を説明する文章を書く」ことが学習内容の中心となる。

また、本単元は、「読むこと」の「イ 時間的な順序、事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと」や「エ 語や文としてのまとまりや内容、響きなどについて考えながら声に出して読むこと」とかかっている。

本教材「じどう車くらべ」は、この時期の児童にとって興味・関心の高いものの一つである自動車を取り上げた説明文である。本教材は、四つの意味段落からなり、第一段階で、話題と問題提示、第二～四段落でその説明がなされる。第一段落の二つの「問い」の答えを、第二～四段落では「しごと」と、そのための「つくり」の二つの観点で述べており、児童が事柄の順序を考えながら読み進めるのに適した教材である。また、身近な「自動車」という題材であることから、児童の主体的な学習活動を促すことができると考える。

(2) 児童観

児童はこれまで、「くちばし」や「みいつけた」の学習を通して、挿し絵や文から様子を読み取ることや、「問い」と「答え」の説明文の基本的な構成を学んできている。大切な言葉にサイドラインを引く活動も行っているが、まだ、自分の力だけでは大切な言葉や文を探せない児童もいる。音読については、家庭学習で取り組んでいることもあり、児童は、少しずつ自信を持って読めるようになってきている。また、読書への関心も高い児童が多いが、まとまった文章を読むことを苦手としている児童もあり、絵や写真を見て楽しんでいることが多い。

(3) 指導観

第一次では、挿し絵から知っている自動車について自由に話をさせ、興味・関心を高めるとともに、第一段落から「しごと」と「つくり」の二つを読み取っていくことを確認し、読みの視点を明確にする。また、読み取った後には「じどう車ずかん」を作ることを知らせ、大きな読みのめあてをもたせるようにする。

第二次では、文章のつくりがそれぞれの車の「しごと」とそのための「つくり」になっていることを確認し、「しごと」→「つくり」の順での読み取りを繰り返すことで、事柄の順序を意識させていくようにする。また、主語と述語も押さえながら、内容を正確に読み取るようにする。さらに、学習

したことを基にして、「はしご車」の「しごと」と「つくり」について、「そのために」の語句の使い方を全体で確認しながら書かせるようにする。

第三次では、自分の好きなじどう車について、「しごと」と「つくり」を図鑑などで調べ、前時までの学習を生かして、「じどう車ずかん」を完成させるようにしたい。

6. 単元目標

- 知識を得るために、事柄の順序を考えながら内容の大体を読み、文章の中の大事な言葉や文を書き抜くことができる。
- 事柄の順序に沿って、簡単な構成を考え、句読点を使ってつながりのある文を書くことができる。
- 片仮名で、長音、拗音、促音を表記することができる。

7. 評価規準

ア 国語への関心・意欲・態度

- ・自動車についての説明文や絵本・図鑑を読もうとしている。

イ 読む能力

- ・何と何（「しごと」と「つくり」）が書かれていることを理解している。
- ・文章の中から必要な部分を書き抜いている。
- ・調べるために本を選んで読んでいる。

ウ 書く能力

- ・教科書のモデル文にならい、「そのために」を使って「しごと」と「つくり」を関連させて書いている。

エ 言語についての知識・理解・技能

- ・教科書に提示された片仮名を正しく書いている。

8. 指導計画 評価計画

次	時	情報活用能力 分類	学習活動	評価規準と評価方法
1	1	あつめる	自動車にはさまざまな種類があることに気づき、自動車への興味・関心を高め、学習の見通しを持つ。	【関】自動車にはいろいろな種類があることに関心を持ち、どのような図鑑を作るかを考えようとしている。 (発言・観察)
2	2		バスや乗用車の「しごと」と「つくり」について読み取る。	【読】・叙述をもとに、自動車には「しごと」と「つくり」があることに気づいている。 ・バスや乗用車の「しごと」と「つくり」を書き抜いている。 (ワークシート)

	3		トラックの「しごと」と「つくり」について読み取る。	【読】・叙述をもとに、自動車には「しごと」と「つくり」があることに気づいている。 ・トラックの「しごと」と「つくり」を書き抜いている。 (ワークシート)
	4		クレーン車の「しごと」と「つくり」について読み取る。	【読】・叙述をもとに、自動車には「しごと」と「つくり」があることに気づいている。 ・クレーン車の「しごと」と「つくり」を書き抜いている。 (ワークシート)
	5		はしご車の「しごと」と「つくり」について説明の文章を書く。	【書】はしご車の説明を、「しごと」と「つくり」に分けて書いている。 (ワークシート)
3	6	とらえる	自分の好きな自動車について絵本や図鑑で調べる。	【関】図鑑を作るために、じどう車についての絵本や図鑑を進んで読もうとしている。 (観察)
	7 8 9	まとめる	自分の好きな自動車の「しごと」と「つくり」について説明の文章を書く。 【本時】	【書】「しごと」と「つくり」の順序を考えながら、「そのために」を使って、自分の好きな自動車の説明文を書いている。 【言】片仮名で書く語を正しく読んだり、書いたりしている。 (ワークシート・観察)
	10	伝える	作った図鑑を発表し合う。	【読】友達の自動車図鑑を「しごと」と「つくり」のかかわりに気をつけてとらえている。 (発表・観察)

9. 本時の目標

好きな自動車の絵本や図鑑を読み、「しごと」と「つくり」を調べて書くことができる。

10. 本時の展開

学習活動	指導上の留意点	評価 評価方法
1 これまでの学習場面を音読し、前時の学習を振り返る。	・それぞれのじどう車の「しごと」と「つくり」を思い出しながら読む。	
2 本時の学習課題を確認する。		
すきなじどう車のえほんやずかんをよんで、じどう車ずかんをつくろう。		

<p>3 教科書の例(救急車)を音読する。 (全体読み) (指名読み)</p> <p>4 救急車の「しごと」と「つくり」を読み取る。 ○「しごと」と「つくり」を読み取る。 ○「しごと」と「つくり」を繋げる言葉「そのために」を確認する。</p> <p>5 好きな自動車の「しごと」と「つくり」を読み取り、文章に書く。</p>	<p>・「しごと」と「つくり」を考えながら読ませる。</p> <p>・「しごと」の内容に赤で、「つくり」の内容に青で、線を引かせる。</p> <p>・読み取る際には、隣と相談させる。</p> <p>・絵本や図鑑から「しごと」と「つくり」をそれぞれ読み取らせる。</p> <p>・どんな「つくり」になっているのか、写真や挿絵でもしっかり見るようにさせる。</p>	<p>・「しごと」と「つくり」の順序を考えながら、「そのために」を使って、自分の好きな自動車の説明文を書いている。(机間指導・発言)</p>
<p>6 書いた文を推敲する。</p>	<p>・「、」や「。」がついているか、字は正しく書けているか、確認させる。</p>	

1 1. 板書計画

<p>・字は正しくかけていますか。</p> <p>ろはないですか。</p> <p>・「」をつけたほうが、よみやすいところはないですか。</p> <p>・ぶんのおわりには、「。」がついていますか。</p>	<p>※かいたら よみかえそう。</p>	<p>きゆうきゆう車は、けがをした人を、びょうきの人を、びょういんへはこぶしごとをしています。</p> <p>そのために、うんてんせきのうしろは、人をねかせることができるようになっています。</p>	<p>じどう車くらべ</p> <p>じどう車ずかんをつくらう。</p>
---	----------------------	---	-------------------------------------

1 2. 実践授業を終えて成果と課題

授業を進めていくうえで、「しごと」と「つくり」を色分けしてサイドラインをひき、まとめることで、子どもたちは「しごと」と「つくり」を整理して考えていくことができた。しかし、図書館の本や図鑑から読み取るのが難しい子どももいた。特に、珍しい自動車を選んだ子どもたちは、「しごと」は分かっても、絵や写真から「つくり」を読み取るのに苦戦していた。好きな自動車について読み取る前に、複雑な自動車の場合はどこに着目したらよいかなど、事前にいくつか例をあげていれば、もう少し読み取りやすかったのではないかと思う。

第1学年 生活科学学習指導案

箕面市立萱野小学校
指導者 小谷周平

1 日時 2月14日(木) 5時間目(13:50~14:35)

2 学年・クラス 1年生(混合グループ)

3 場所 1年3組教室

4 研究仮説

情報活用の段階を意識した指導計画を立て、それぞれの段階に応じた具体的手立てを組み込んだ授業を、発達段階に応じて、経年で指導していくことで義務教育終了段階で社会に出て活用できる情報活用能力の育成が図れるだろう

5 授業仮説

実際に目の前で遊びのコツを教えてもらい、それができない場合には ICT 機器を使って映像を見て学ぶことで、児童の学習意欲の向上、遊びの技の上達につながるだろう。

6 単元名 むかしからのあそびをしてみよう
～あそび名人になろう～

7 単元設定の理由

(1) 教材観

様々な人との関わりを通して、児童の生活は豊かになってゆく。「もっと上手になりたい」「記録を伸ばしたい」という思いや願いを持って人と関わることで、その関わりが豊かなものになる。

地域の方との関わりを通して、地域の方への憧れや、「遊び名人」になりたいという思いや願いを育てることができる。

(2) 児童観

1年生の子どもたちはとても元気で明るく、興味のあることには目を輝かせて取り組んでいる。頑張ってみんなに褒められるような、「すごいね」と言ってもらえるような1年生をめざして、チャレンジしていく姿がある。新しいことが好きで、学習内容が徐々にレベルアップすることを喜ぶ場面も見られる。

色々な遊びが大好きで、1年3組ではけん玉が流行っている。友だち同士教えあったり、上手な児童の技をみんなで見たりしている。

(3) 指導観

●事前の打ち合わせ

「人との関わり」を大切にしたい授業を展開するためには、児童が主体的に人と関わること、学習協力がその必要感に応じることがポイントである。受け身ではなく「教えてもらいたい」という姿勢を大切に、児童に対して親切にしすぎないよう配慮してもらおうことも必要である。

●向上心を養う

友だちとの競争、自分の記録への挑戦などが、児童の意識の中心にある。この思いを大切にして地域の方と関わりができるようにしたい。「上手になりたい」「記録を伸ばしたい」という思いが、主体的な関わりを生む。

○昔遊び調べ

- ・冬休みに、おうちや地域で「昔遊び」「伝承遊び」について調べてくる。遊びの名前、やり方、必要な道具など。
- ・本に載っている情報から、遊びの名前、やり方、必要な道具などを調べる。
- ・みんなの意見を集め、それぞれどんな遊びなのかまとめる。
- ・いろいろな遊びを試して、自分が最も興味のある遊びを選ぶ。

○遊び名人になろう

- ・遊び名人になるために、地域の方や名人に教えてもらいながら練習する。
- ・教えてもらったコツや気付いたコツなどをまとめる。

○できたことを伝えよう

- ・遊びの練習の成果を発表し、伝えあう。
- ・教えてもらったり気付いたりした遊びのコツを発表し、伝えあう。

8 単元目標

地域の方に昔からの遊びを教わったり、いっしょに遊んだりする中で、昔からの遊びのよさや楽しさ、地域の方の優しさに気づくことができる。

9 評価規準

- <関心・意欲・態度> 昔の遊びに興味を持って調べることができる。
- <思考・判断> 遊びの面白さ、コツを考えることができる。
- <表現・技能> 昔の遊びのコツをつかみ、自分で設定した目標を達成することができる。
- <知識・理解> 地域のよさ、遊びのよさを理解することができる。

10 指導計画 評価計画

時数	情報活用能力の分類	内容	学習内容（ねらい）	関	考	表	知	評価規準 評価方法
	あつめる	様々なメディアや人からの情報収集能力	身の回りの人から昔遊びについて聞く。	○				(冬休みの学習)
1	とらえる	情報の選択・分析	みんなの意見を集め、どんな遊びがあるかまとめる。	○				積極的に意見が言える。自分がどの遊びに取り組むか、自主的に決めることができる。
4	まとめる	情報の加工と編集	遊び名人からのアドバイスと挑戦を受けとる。自分の選んだ遊びを練習し、上達する。			○		上達しようと技に取り組むことができる。友だちと協力したり教えあったりすることができる。ICT機器を活用し、情報を受け取ることができる。
2	伝える	目的や意図に応じて、様々な形でプレゼンテーションする	自分が教えてもらったコツや気付いたコツを発表する。		○	○		初めての人にもわかりやすく紹介、発表することができる。
1	振り返る	自分の情報活用について振り返る	発表を聞いて知ったこと、自分が発表で伝えられたことを振り返る。				○	発表をして、発表を聞いて思ったこと、考えたことを文章にして振り返ることができる。

1.1 本時の目標

「遊び名人」からのアドバイスと挑戦を、ICT機器を活用して受け取ることができる。
グループで協力したり教えあったりしながら、遊びの上達をめざすことができる。

1.2 評価の観点

＜あつめる、とらえる＞

IWBに映される遊び名人からのメッセージを集中して見ることができる。
タブレットPCを使い、遊び名人からのメッセージを受け取ることができる。
自分のグループの遊びのコツや、遊び名人からの挑戦を受け、自分ができることを考える。

＜まとめる、交流する＞

グループごとに協力し、遊びのコツを教えあうことができる。
自分の技を上達させるため、効率よく練習することができる。

1.3 本時の展開

情報活用能力の分類	教師の発問・指示	児童・生徒の反応・活動	○指導上の留意点 【評価：評価方法】
あつめる とらえる	「タブレット PC を一台用意しましょう」 「今日は、遊び名人からメッセージが届いています」 「電子黒板でそのメッセージを見るので、タブレット PC は一旦置いておきましょう」	グループごとに教室に分かれて、授業を始める。 タブレット PC を、一グループに一台用意する。 タブレット PC を起動する。	事前に遊びグループを振り分けておく。 グループのうち、 <u>その教室の児童を指名し</u> 、PCを持ってこさせる。 電源を入れた際に不具合がないかどうか机間指導を行う。
まとめる 交流する	「今見たメッセージは、みんなのタブレット PC からも見ることができます」 →動画へのリンクを説明する	IWBを見て、「遊び名人からのメッセージ」を受け取る。	IWBに集中できているか。 自分のグループの遊びだけでなく、他のメッセージにも注目できているか。
振り返る	「また見たいときはそれを見ながら、グループごとに練習しましょう」	グループごとに、練習を始める。 必要であれば中庭やワークスペースへ出てよい。	グループ内で技やコツの交流ができているか。 必要な情報を、タブレットPCを使って受け取ることができるか。

	<p>「今日の練習を振り返って感想を書きましょう」</p>	<p>上達具合を自分で振り返る。</p>	<p>「楽しかった」だけでなく、自分ができるようになったこと、つかんだコツなどが書けているか。</p>
--	-------------------------------	----------------------	---

1.4 実践授業を終えて成果と課題

今回グループごとに見た動画は、動機づけとしての動画にはなっていたが、もっと時間があればよりわかりやすい動画が作れたと思う。限られた時間の中で多くの先生の協力を得て作ることができたが、動画の構成はあまり縛ることなく、先生ごとに自由に演じてもらった部分も多いので、動画の時間や内容は様々なものとなった。

一つひとつに「コツ」「練習方法」についての言及と見本を必ず入れ、もっとあからさまに提示してもよいのではという指摘もいただいた。また、スロー再生の機能を入れることで、見たい部分を繰り返しゆっくり見られたのでは、という指摘もいただいた。確かに1年生ということもあり、もっと丁寧に動画が作れたらと思う。

練習時間には自分が子どもたちのところを回り、教えることが多かったが、この授業では「まず動画を見て」練習するように仕向けていく必要があったと反省した。

この取り組みの中で、気になる子どもが生き生きと活動していたのが印象的だった。普段学習の中で躓いたり、後ろ向きな発言が多く見られたりする子どもが、技を一生懸命練習して、できるようになったことを嬉しそうに報告してくれていた。また、「他の昔遊びもしたい」という声もあり、次の日の活動ではグループの遊びだけでなく他の遊びにも参加できる形式にしていたことが効果的だった。

1年生ながら、タブレット PC の起動、動画を見るための操作、シャットダウンまである程度スムーズにできていたと思う。1年生にタブレット PC を操作させるには、細かなスキルを教えていく必要があるが、普段の学習の中で少しずつ触る機会を設けてきた効果があったように思う。

第6学年 体育科学習指導案

箕面市立北小学校

指導者 西田 俊治

1. 日 時 平成24年(2012年)6月13日(水) 第5限(1:45~2:30)
2. 学 年・組 6年い組(男子17名、女子11名 計28名)
3. 場 所 北小学校体育館
4. 研 究 仮 説 情報活用の段階を意識した指導計画を立て、それぞれの段階に応じた具体的手立てを組み込んだ授業を、発達段階に応じて、経年で指導していくことで義務教育終了段階で社会に出ても活用できる情報活用能力の育成が図れるだろう。
5. 授 業 仮 説 自分自身やみんなの演技を振り返ることができるように、ビデオカメラと大型テレビモニターという情報機器の活用を活用する。映像確認の際は、スロー再生機能も活用することで、じっくりと演技を見ることができるようにする。その際、技のポイントを自分とグループのメンバーで振り返り、課題を見つけて共通認識し、それ以降のグループ練習に生かせるようになると考える。
6. 単 元 名 「跳び箱運動」(器械運動領域)
7. 単元設定の理由

(1) 教材観

跳び箱運動は、いろいろな技に挑戦し、達成する楽しさや喜びを味わうことができる運動である。また、より困難な条件の下でできるようになったり、より雄大で美しい動きができるようになったりする楽しさや喜びもある運動である。その反面、「できる」「できない」がはっきりしているため、できないときには意欲が低下してしまうこともある。そのため、基礎的感覚づくりや技の達成への道筋を明らかにする場面、場の工夫が大切であると考え。また、友だち同士で教え合ったり、励まし合ったりしながら技を身に付けていくことも技能の習得のために大切であると考え。

(2) 児童観

本学級の児童は、活発でどの教科の学習や行事にも意欲的に取り組んでいる。また、児童の多くは体を動かすことが好きで、休み時間や放課後などを利用して、よくみんなでボール遊びや鬼ごっこなどをして遊んでいる。体育の授業時間は、多くの子が楽しみにしていて、意欲的に運動に取り組んでいる。授業中、教師の指示した内容には素直で積極的に取り組むが、教師の指示を待っている場面が多くみられ、次の指示があるまでに、学習した内容以上のことを自分たちで考えて、発展的に動きを高めたり、工夫したりするのは苦手である。全体場で意見を発表することも苦手である。また、あまり興味がわかなくなったり、しんどいことや困難な場面に直面すると、とたんに消極的になったり、集中できなくなったりする傾向もみられる。

(3) 指導観

跳び箱運動での技の習得度合いや達成感は、個々人の運動能力に左右されがちである。しかし、クラス全体(グループ)で技に取り組む過程で、跳び箱運動の楽しさや目標とする技が、クラス全体(グループ)で、できる喜びをみんなで味わいながら、子ども同士が認め合ったり、関わりが高められたりもできるのではないかと考える。

今回、跳び箱運動を行うにあたって、「自分の体の動きがわかり、技ができた喜び」を味わわせたいと考えている。クラス全体（グループ）での学習を通して、自分一人だけでは気付かなかった身体の動きを知ったり、お互いに技能を高め合ったりすることで目標となる技の習得、学習ができるよう指導したい。

8. 単元目標

技 能	基本的な支持跳び越し技が安定してできるとともに、その発展技ができる。
態 度	跳び箱運動に進んで取り組み、約束を守り、助け合って運動したり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすることができる。
思考・判断	自分の課題を知り、それを改善しようとするすることができる。

9. 学習活動における具体的な評価規準

技 能	①基本の技（大きな台上前転）に組み込み、安定した動作でその技ができる。 ②自分の力に合った発展技（首はね跳び）に取り組むことができる。
態 度	①楽しさや喜びを求め、跳び箱運動に進んで取り組もうとしている。 ②約束を守り、友だちと助け合って練習しようとしている。 ③安全に気を配り、運動や準備、片づけを行おうとしている。
思考・判断	①基本の技に関して自分に適したためあてをもち、それに応じた練習の場や段階を選んでいる。 ②発展技に関して自分に適したためあてをもち、それに応じて練習の場や段階を選んでいる。 ③教師や友だちからの声かけや、学習資料などを活用し練習している。

10～14. 指導計画、本時など（別紙）

15. 実践授業を終えて成果と課題

- ・ICTを活用することで明らかにビフォーとアフターで子どもたちに変化が見られた。このことから子どもが自分の姿を見ることは大切だと感じた。映像を見ることにより、少なからず子どもの中で自分自身の課題が見えたのではないかと。
- ・ICTを使うと運動量が減るのではと考えていたが、運動量はある程度確保できた。しかし、映像を見た後は、運動量を増やしたかった。子どもたちも「挑戦したい」「跳びたい」と思っていただろう。
- ・映像を見せるときに、もっと視点を明確にすべきであった。

(別紙1) 単元計画 (全7時間・・・本時6時)

		1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	6時間目(本時)	7時間目	
学習内容	前転		ひざピン前転 (大きな前転)	ひざピン前転 (大きな前転)	ひざピン前転 (大きな前転)	ひざピン前転 (大きな前転)	ひざピン前転 (大きな前転)	ひざピン前転 (大きな前転)	
	ひざピン前転 (大きな前転)		跳び箱の上での 台上前転 (ひざピン台上前転)	ひざピン台上前転 (大きな台上前転)	ひざピン台上前転 (大きな台上前転)	ひざピン台上前転 (大きな台上前転)	ひざピン台上前転 (大きな台上前転)	ひざピン台上前転 (大きな台上前転)	
学習課題		「ひざを伸ばした前転をしよう」	「跳び箱の上でひざを伸ばした前転をしよう」	「ひざを伸ばした台上前転をしよう」	「アンテナボキからはねとぼう」	「(ひざピン)前転からはねとぼう」	「台上前転からはねとぼう」	「首はねとびをしよう」	
授業展開	導入	準備・整列・あいさつ・準備運動(首のストレッチ、壁突き放し、アザラシ、ゆりかご、アンテナ、ブリッジ)							
	展開	オリエンテーション	ひざを伸ばして大きな前転をする	ひざを伸ばして大きな前転をする	(ひざを伸ばして大きな前転をする)	ひざを伸ばして大きな前転をする	ひざを伸ばして大きな前転をする	ひざを伸ばして大きな前転をする	
		前転をする		跳び箱を縦に2つつけてひざピン台上前転をする	(ロイター板でひざを伸ばしたまま腰を上げる練習をする)	ロイター板でひざを伸ばしたまま腰を上げる練習をする	ロイター板でひざを伸ばしたまま腰を上げる練習をする	ロイター板でひざを伸ばしたまま腰を上げる練習をする	
		ひざピン前転(大きな前転)をする①	跳び箱を縦に2つつけてひざピン台上前転①	ロイター板でひざを伸ばしたまま腰を上げる練習をする	ひざピン台上前転をする	アンテナボキからブリッジ	アンテナボキからブリッジ	アンテナボキからブリッジ	ひざピン台上前転発表会
		[ビデオタイムビフォー]	[ビデオタイムビフォー]	跳び箱を横に2つ並べ、間にマットをかけてひざピン台上前転をする	跳び箱の上でアンテナボキから立つ①	ステージの上からはねとびをする	首はね跳びをする①	[ビデオタイムビフォー]	首はね跳び発表会
		ひざピン前転(大きな前転)をする②	跳び箱を縦に2つつけてひざピン台上前転②	ひざピン台上前転をする①	補助に引き上げてもらい、首はねおきをする	跳び箱を縦に2つつけて、前転から首はね跳びをする①	[ビデオタイムビフォー]	[ビデオタイムビフォー]	
		[ビデオタイムアフター]	[ビデオタイムアフター]	ひざピン台上前転をする②	跳び箱の上でアンテナボキから立つ②	跳び箱を縦に2つつけて、前転から首はね跳びをする②	首はね跳びをする②	[ビデオタイムアフター]	[ビデオタイムアフター]
まとめ	振り返し、あいさつ、片付け								

(別紙2) 本時について(6/7)

(1)本時の目標・・・台上前転からはねとぼう

(2)本時の展開

	学習活動	学習内容	教師の指導 (○指導上の留意点 ◎発問)	評価	準備物
導入	準備・整列・あいさつ・準備運動(首のストレッチ、壁突き放し、アザラシ、ゆりかご、アンテナ、ブリッジ)	・両腕で壁を突き放す。 ・アザラシは、両腕で身体を支え、前へ進む。 ・アンテナは、首の上に体重が乗るように意識する。(ボキの際は、ひざを伸ばす。) ・ブリッジでは、身体をそる。	○各準備運動のポイントを確認する。 ◎この後の、「台上前転」「首はねとび」を意識してやってみよう。		・跳び箱5台 ・ロイター板5台 ・ブロックマット ・柔道帯 ・マット数枚 ・黒板 ・電子モニター ・デジタルビデオ
展開	ひざを伸ばして大きな前転をする	・ひざを伸ばすことを意識する。	○腕で身体を指示し、頭を入れるように指示する。 ◎ゆっくり「ため」を作って回ろう。		
	ロイター板でひざを伸ばしたまま腰を上げる練習をする ひざピン台上前転をする	・腰を高く上げることが意識する。 ・ひざを伸ばすことを意識する。	○腰を高く上げると同時に、ひざを伸ばすように指示する。	大きな台上前転を、安定してできる。(技能)	
	アンテナボキからブリッジ 首はね跳びをする①	・「はねる」を意識する。 ・今までの学習を思い出し、チャレンジしてみる。	○腕でしっかりと押す。足のけりも意識する。 ○困難な子には補助するように指示する。 ◎「はねる」感覚を意識しよう。 ◎跳び箱の下から、台上前転をして、最後にはねとぶことができるかな？ ◎はねられる子はどうなっているかな？ ポイントは何だろう？	友だちと助け合って練習しようとする。(態度)	
	[ビデオタイムビフォー] 首はね跳びをする②	・自分や友だちの演技をみる。 ・ビデオ映像を思い出し、自分やグループの友だちに必要な練習を考えて行う。	○これまでの学習をふり返し、自分に必要な場を考えて練習をしよう。 ◎ビフォーよりもはねられるようになったかな？	発展技に関して自分に適したためてをもち、それに応じて練習の場や段階を選んでいる。(思考・判断)	
まとめ	振り返し、あいさつ、片付け	・自分や友だちの演技のビフォーとアフターの違いに着目する。	◎どんなことを意識したのかな？ ◎どこが変わったのかな？		

情報活用能力育成のための授業研学習指導案

第5学年 国語科学習指導案

箕面市立南小学校

指導者 平松 真咲

1 日時 2013年 1月 21日

2 学年・クラス 5年2組 (男子16名 女子17名 計33名)

3 場所 5年2組 教室

4 研究仮説

情報活用の段階を意識した指導計画を立て、それぞれの段階に応じた具体的手立てを組み込んだ授業を、発達段階に応じて、経年で指導していくことで義務教育終了段階で社会に出ても活用できる情報活用能力の育成が図れるだろう

5 授業仮説

データを読み取り、自分で解釈することが重要なこの単元を指導するにあたって、「あつめる」の段階で、自分の立場をはっきり示させ、その考えを立証するために必要な資料の方向付けを行うことによって、一人で考えることが苦手な児童に目的や意図に応じて収集した事柄を整理

6 単元名 「グラフや表を引用して書こう」

7 単元設定の理由

(1) 教材観

この単元は、わたしたちが今生きている社会は「暮らしやすい」のか「暮らしにくい」のかについて、資料を読み解いてそれを基に論述し、意見交流をする学習である。

グラフや表は、研究や調査の結果が数字で整理されていたり、量的な対比や変化が分かりやすく示されていたりするので、その客観性と可視性の点で説得力を発揮する。しかし、それらのデータは、示すだけでは意味をもたない。そこから何を読み取ることができるのか、何を意味づけることができるのか、自分の考えを裏付ける資料となりえるのかなど、データの解釈が必要となる。取材の段階では、引用する資料の解釈・吟味を大切にしたい。

また、理由や根拠を明確にしながら自分の考えを説得力をもって記述する力、グラフや表から読み取れる事柄を言葉で表現する力は、いずれも高学年の教科学習において重視されるべき言語力である。社会科や理科など、他教科との関連も考えながら取り組んでいきたい。

(2) 児童・生徒観

本学級の児童は、行事などには前向きに取り組み、みんなで協力し合うことができる。素直な児童が多いが、少し幼く、自分の言いたいことを優先させてしまう傾向があり、興味のある話題になると、人が話していても、それをさえぎって発言してしまう児童がいる。また、一人でじっくり考えることが苦手な児童も多い。

社会科の授業などで、グラフや地図を読み取る学習はしてきているが、その結果からどんなことがわかるかを考えるとなると、なかなか難しく、一部の児童の意見に頼りがちである。また、一度話を聞いただけでは理解の難しい児童も少なくない。できるだけ机間指導をし、個別の対応が必要である。

(3) 指導観

はじめに、自分がどのような立場に立って進めていくのかを明確にすることが大切なので、新聞や

ニュースなどに取り上げられている話題を紹介したり、昔の暮らしと比べさせたりしながら、自分の考えをもたせるようにする。さらに、自分の考えの立場をはっきり示すこと、考えの根拠を示すこと、その根拠が考えを裏付けるに足るものであることの3点をしっかり押さえさせる。

8 単元目標

○目的や意図に応じて収集した事柄を、全体を見通して整理するとともに、引用したり図表やグラフを用いたりするなど、書き方を工夫して、自分の考えが伝わるように書くことができる。

○書いたものを発表し合い、表現のしかたに着目して助言し合うことができる。

9 評価規準 4 観点（関心・意欲・態度 思考・判断・表現 技能 知識・理解）

国語（関心・意欲・態度 話す・聞く能力 書く能力 読む能力
言語についての知識・理解・技能）

10 指導計画 評価計画（評価の重点化）

時数	情報活用能力の分類	内容	学習内容（ねらい）	関	考	表	知	評価規準 評価方法
1	あつめる	様々なメディアや人からの情報収集能力	日本の「くらしやすさ」「くらしにくさ」について、個人で考え、クラスで交流する。	○	○			観察
1	とらえる （本時）	情報の選択・分析	統計資料からわかることを出し合い、資料を読み解いて、自分の使う資料と立場を決める。		○		○	観察
2	まとめる	情報の加工と編集	自分の立場に沿って文章の構成を決め、意見を文章に書く。			○		児童が書いた原稿
2	伝える	目的や意図に応じて、様々な形でプレゼンテーションする	パソコンで清書する。				○	発表態度 振り返り用紙
1	交流する	人と対話し練り上げる	グループで読み合う。					
	振り返る	自分の情報活用について振り返る	学習を振り返り、自分が友だちから学んだことなどを振り返る。	○	○			

11 本時の目標

提示された資料からわかることを自分なりにつかみ、自分の立場を決めることができる。

1.2 本時 評価の観点 評価規準

「思考・判断」

○今の社会は「暮らしやすい」のか「暮らしにくい」のか、また、根拠となる事実を示して考えることができる。

○資料から読み取れる内容をふまえて、自分の立場を決めることができる。

1.3 本時の展開

情報活用 能力の分類	教師の発問・指示	(予想)児童・生徒の反応・ 活動	○指導上の留意点 【評価：評価方法】
あつめる	前時の振り返り		
	これからの社会は「暮らしやすい」か「暮らしにくい」か、どちらの立場に立つかを、資料をもとに考えよう。		
とらえる 交流する	提示した4つの資料について読み取り、わかることを発表する。 出たことをもとに、どの資料を使い、どのような立場で文章を書くのか決める。 「暮らしやすさ」、「暮らしにくさ」について、根拠をはっきりさせながら、文章を書く。	資料からわかる事実をとらえる。 自分の意見を発表する。 友だちの発表を聞く。	○この先どんな社会になっていくか、資料から予想させる。 ○ひとりでは立場を決められなかったり、理由を考えられなかったりしたら、友だちの意見を聞いて参考にさせる。

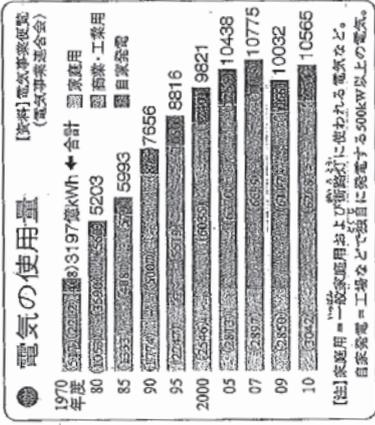
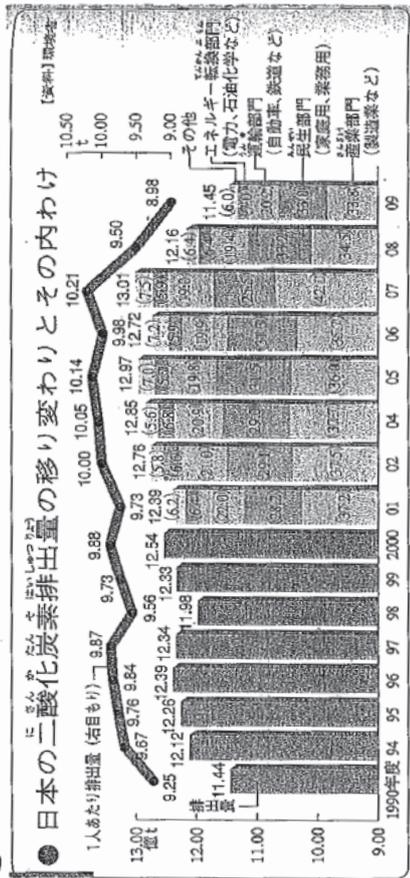
1.4 成果と課題

それぞれの統計資料を見て示されている事実を読み取ることは、多くの児童ができるようになってきている。社会科で、よく資料を読み取っている成果でもあると考えられる。しかし、読み取った情報からどんな変化や傾向が考えられるかという、情報の分析という面においては、なかなか一人では考えられない児童も多く、まだまだ課題が見られた。

① グラフを見て、わかることや気がついたことを書きましよう。

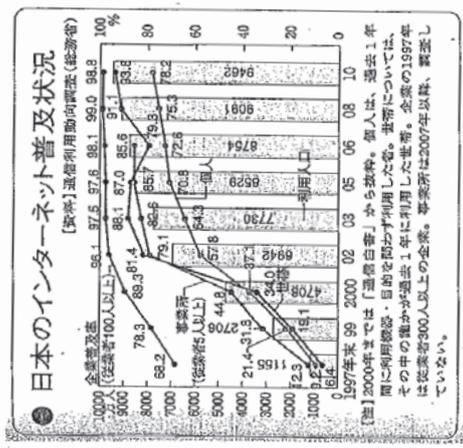
5年組 ()

①



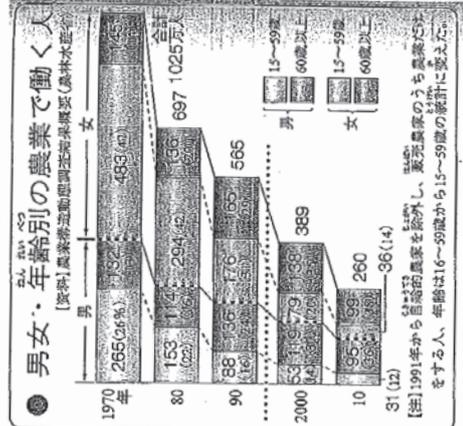
②

③



③

④



④

情報活用能力育成のための授業研学習指導案

第3学年 社会科指導案

指導者 川崎 和子

- 1 日時 2013年2月5日 5時限目
 - 2 場所 箕面市東小学校 3年3組（32名）
 - 3 単元名 暮らしをささえるまちではたらくひとびと
～ものをつくる人々の仕事～
 - 4 研究仮説 「多種多様な情報収集手段があることを知る。」「集めた情報を整理・分類し、読み取って分かったことを拾い出す。」「調べた情報と自分の意見を区別して、自分の考えを相手に分かるように表現する。」「他人の発表を見て良いところと改善点を見つける。」情報活用の段階を意識した指導計画をたて、具体的手立てを組み込んだ授業を発達段階に応じて、経年で指導していくことで、社会に出て活用できる情報活用の実践力の育成が図れるだろう。
 - 5 授業仮説 情報活用の実践力の育成は、「資料を目的に応じて編集する」「自分の情報や他人の情報を大切にすること」で図れるだろう。
 - 6 (教材観) 校区の方々との交流1年生「むかしあそび」、2年生「校区探検」「ゆうびん局訪問」と校区内で働く人々や施設に関わり学習してきた。3年生になり、総合学習において、はたらくことについて学習し、また、社会科においては、スーパーや図書館の見学、取材を行った後の本単元である。私たちの住む箕面市は、1956年三島郡豊川村を箕面町に編入し、大阪府下24番目の市、箕面市となった。箕面駅から龍安寺、箕面滝にかけては観光地として発展している。大滝と川沿いの紅葉が観光の目玉であり、野生のニホンザルも有名である。本単元では、箕面のお宝を発見し、そこに携わる様々なメディアや人からの情報を収集する能力やその情報の選択や分析、そして、その情報の加工と編集、更には、目的や意図に応じたプレゼンテーションといった中学年における情報教育プログラム「情報活用能力の育成」を兼ねた学習でもある。
- (児童観) 前向きに学習できる子どもたちである。しかし、自分に関係のないことはきっぱり断ることができるほどドライである。核家族で生活する家庭が多く、箕面市という地域を実感する機会が少ないようだ。東部の地域では、生活圏が千里中央や北千里といった他市を利用していることを買い物調査アンケート結果からも確認できた。塾やおけいこ事に追われ、地域の暖かさを感じることは難しいようだ。他人のことは別としっかり意思表示しつつも、友だちとの関わりが大好きな面がある。そんな子どもたちに、関わりの中の温もりを体感させたい。

(指導観) 本単元では、市の特性を活かした取り組みに興味を持ち、豊かに生きる人々から郷土愛を育てたい。また、人々の温もりを感じ、そこで働く人々の存在に気づかせたい。

7 単元目標

[理解] 地域の販売や生産にかかわる仕事は、自分たちの生活を支えていること、また販売や生産に携わっている人々の工夫や他地域と関わりがあることを理解できるようにする。

[態度] 地域の販売や生産の仕事の様子について関心を持ち、意欲的に調べることを通して地域社会の一員として自覚を持つようにする。

[能力] 地域の販売や生産の工夫などを観察、調査したり、白地図やグラフにまとめたりにして、他地域との関わりを持ちながら、様々な工夫をしていることを考える力、調べたこと考えたことを表現する力を育てるようにする。

8 評価規準

[関心・意欲・態度] 地域の人々の販売や生産の様子に関心を持ち、意欲的に調べることを通して、地域の人々の販売や生産の仕事や自分たちの生活の関わりについて考えようとしている。

[思考・判断・表現] 地域の人々の販売や生産の仕事について学習問題や予想、学習計画を考え表現し、調べたことをもとに、地域の販売や生産の仕事に携わっている人々の工夫について考え、調べたことや考えたことを適切に表現している。

[観察・技能] 地域の人々の販売や生産の仕事の特色や国内外の他地域などとの関わりなどを見学、調査して具体的に調べるとともに、調べた過程や結果をノートや作品にまとめている。

[知識・理解] 地域の販売や生産の仕事に携わっている人々の工夫や、それらの仕事は他地域とのかかわりがあることを理解している。

ミソカ 株式会社夢職人 広告より

箕面ビール 読売新聞夕刊記事 2012年7月28日より
箕面ビールHPより

カルピス 読売新聞 日曜版13版より
箕面市HPより

<http://www.rekishikaido.gr.jp/time-trip/mailmagazine/200903/hkawa0903.html>

<http://www.city.minoh.lg.jp/~data/minoh-onkochishin/model/04.htm>

郷土資料館 見学の際にいただいた資料より

昆虫館 見学の際にいただいた資料より

9 指導計画

	情報活用能力 の分類	学習課題	学習内容	評価 基準
1	あつめる	箕面市ではどんなものが作られているだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> スーパーで売られていた商品について考える。 市内でつくられているものがあるか考える。 調べる計画をたてる。 	関心 意欲 態度
1	とらえる	箕面市で作られているものを調べよう。	<ul style="list-style-type: none"> 調べてみたいことを話し合う。 滝道を歩く計画をたてる。 	知識 理解
3	まとめる	箕面から世界へ。	<ul style="list-style-type: none"> 見学したことをグループで話し合いパンフレットとしてまとめる。 	観察 技能
1	伝える (本時)	生まれ育った箕面市のオリジナル商品や観光所を紹介しよう。	<ul style="list-style-type: none"> グループで発表する。 	思考 表現
1	交流する	滝ノ道ゆずるはどうして生まれたのだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> 滝ノ道ゆずるの由来を知る。 「ゆずともみじの里・箕面プロジェクト会議」から生み出された商品を知る。 	知識 理解
3	振り返る	教科書に書かれてある他地域との違いを確認し、私たちの住む箕面との関わりについて知る。	<ul style="list-style-type: none"> 教科書から一年を読み取り、農家の工夫や努力について考える。 地産についてまとめる。 	思考 表現

10 本時の目標 生まれ育った箕面市のオリジナル商品や観光所を紹介しよう。

11 本時の展開

	教師の発問・指示	児童の発問・活動	評価方法
自力活動	学習課題を提示する。 それぞれが調べてまとめた世界に1つしかないパンフレットを紹介しよう。		
交流活動	では、司会の方お願いします。		
評価活動	<ul style="list-style-type: none"> ミソカの歯ブラシ 箕面ビール 	疑問に感じたことをメモにする。 発表後、そのメモをもとに、挙手	表現

自力活動	<ul style="list-style-type: none"> ・カルピス ・郷土資料館 ・昆虫館 自分のグループを含め、感じたことを振り返り、ノートにまとめましょう。 まとめるポイント ①良かった点 ②発表に工夫されていたところ ③疑問に思ったこと ④もっと知りたくなったこと 誰か発表できる人はいますか。	をし、発問し、確認する。 自分への課題を確認する。 ほかのグループについての気付いた点を話す。	思考
交流活動 評価活動	友達の発言を聞いたことにより、さらに深まったことを振り返りましょう。	めあての達成をふりかえる。	表現

12 実践授業を終えて成果と課題

インターネット検索やパンフレット活用など、難しくとらえていた検索に興味関心が強くなった。箕面で生まれ育ったが、知らない箕面のお宝に触れることにより、郷土愛が更に高まった。聞いて、見て、調べて、発表して、友だちの意見を聞いて振り返ることによって、情報活用の実践力が少しずつ高まった。

課題としては、実践からの資料活用の力を今後どう活かすかそれぞれ目に見える成果として発揮できる場面を設けなければならないということだ。1つのパターンが入ることによってテーマを変えた時に活かせる力に繋げるには、「調べ学習」「ネットに触れる学習」の指導計画に組み込み、社会科に限らず、国語科、理科においても情報活用を意図的に取り入れ育成に繋げたい。

生活科指導案

指導者 西南小学校 江見 あゆみ

1. 日時 平成24年(2012年)11月26日(月) 第3,4校時
2. 学年・組 第1学年、第2学年
3. 場所 2年各教室
4. 単元名 「たのしさいっぱい あきいっぱい」
5. 単元について

○本単元は、学習指導要領の以下の内容を受けて設定している。

- (5) 身近な自然を観察したり、季節や地域の行事にかかわる活動を行ったりなどして、四季の変化や季節によって生活の様子が変わることに関心を持ち、自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりできるようにする。
- (6) 身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりなどして、遊びや遊びに使う物を工夫してつくり、その面白さや自然の不思議さに関心を持ち、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。

1年生の子どもたちは、外遊びが好きである。しかし、自然を利用した遊びは、幼稚園や保育所でしたことはあっても、普段の生活で積極的に遊んだ経験は少ない。その理由には、自然環境の少なさや自然と触れ合って遊ぶ経験の少なさが挙げられるが、子どもたちは常に「こうしたい」「こんなものをつくりたい」などの気持ちにあふれている。

本単元で、実際に自然と触れ合い遊ぶことで、様々な自然の素材を使っただけの遊び方に気づかせ、さらに見つけた秋の素材を使った遊びや飾りを紹介し、つくる活動を通じて、子どもたちの「秋のもので遊びたい」という思いを膨らませ、秋とかかわる楽しさを味わうことができると考える。

本時では、2年生と「あきまつり」を行い、一緒に自然のものを利用したおもちゃ作りに取り組むことにより、試行錯誤の中、工夫や改良をし、よりよく遊ぶために協力することや、人とかわる楽しさに気づかせたい。

6. 単元目標

- ・秋の校庭や公園で、身近な動植物の様子を観察し、秋の草花などの自然を利用して、工夫して楽しく遊んだりして、遊びのおもしろさや自然の不思議さに気付く。
- ・安全に気を付けて、みんなで遊んだり、自分たちの生活を楽しくしたりすることができる。

7. 評価規準

生活への関心・意欲・態度	・秋の自然に関心をもち、秋の自然を利用してみんなで楽しく遊ぶなどして、楽しく生活しようとしている。
活動や体験についての思考・表現	・四季の変化や、季節によって生活の様子が変わることについて自分なりに考えたり、身近な自然やものを利用した遊びを工夫したりして、それを表現している。
身近な環境や自分についての気づき	・夏から秋になって自然の様子が変化したり、季節によって生活の様子が変わったりしていることや、身近な自然を利用して遊びを作り出す面白さに気づいている。

8. 指導計画（全 12 時間）

第1次 （あつめる）	あきみつけにいこう	身近にあるあきをみつけ、あつめる。	3 時間
第2次 （とらえる・まとめる）	はっぱやみでつくってみよう	・みつけたあきの紹介文を書く。 ・あきの自然の材料を使って、形や色などを活かして作品づくりをする。	4 時間
第3次 （つたえる）	みつけたあきをしょうかいしよう	自分がみつけたあきや、つくった作品を紹介する。	2 時間
第4次 （交流する）	あきまつりをしよう	2 年生とあきまつりをし、一緒におもちゃづくりをする。	2 時間 （本時）
第5次 （ふり返る）	ふりかえりをしよう	あきまつりで新たに発見したことなどをふり返る。	1 時間

9. 本時の学習

○目標

- ・2 年生と協力し、ルールを守っておもちゃ作りに取り組むことができる。
- ・2 年生と一緒に、秋のおもちゃで楽しく遊ぶことができる。

○評価規準

- ・秋の自然物を使った遊びに関心をもち、みんなで楽しく遊ぼうとしている。【関・意・態】
- ・秋の自然物を使って遊びをつくり出すおもしろさに気づいている。【気づき】

10. 本時の展開

学習活動	支援・手立て	評価・備考
1. 学習のめあてをつかむ。	・体育館で二学年でめあてを確認する。	
2. あきまつりの準備をする。	・約束の確認をする。	
3. 2年生と交流する。	・作っている途中で、動かなくなったり戸惑っていたりしたら、手直しや工夫のアドバイスをする。	・説明をしっかりと聞いて行動している。 ・進んで活動に参加し、遊びの楽しさに気づいている。
4. 片づける。		・2年生の指示を聞いて協力している。
5. 振り返りをする。	・グループで協力できたことを確認し、ほめていく。	

11. まとめ

第一次「あつめる」では、どんぐりや葉っぱを集めに校区内の公園へあきみつけに行った。そこで子どもたちは、「こんな色がある」「小さいのと大きいのがある」など、葉っぱやどんぐりにも様々な形や色があることに気づいていた。

第二次「とらえる・まとめる」では、それらの発見を大切にしながら、国語教材の「知らせたいな、見せたいな」と対応させて、あきみつけで見つけたものを紹介する文章と絵をノートにまとめた。細かいところまでしっかり観察しながらまとめる姿が見られた。また、集めたどんぐりや葉っぱを使って、以前おいもパーティーに招待してくれた地域の幼稚園と、あきまつりに招待してくれる2年生へのお礼としてどんぐりペンダントを作成した。

第三次では、まとめたノートを班や全体で交流し、感想を言ったり自分のみつけたあきのものをふり返ったりすることができた。

そして本時の第四次では、2年生とあきまつりをし、秋のものを使ったおもちゃ作りを行った。2年生が優しく教えてくれる姿や、一緒に協力して作品を作り上げていく姿が見られた。なにより子どもたちがとても楽しそうにいきいきと活動に参加することができていた。

その後の第五次で、あきまつりを通して新たに気づいたことをメインにふり返りをした。子どもたちは、「どんぐりであんなにおもちゃが作れることがわかった」「はじめての遊びがあったのし

かった」と、あきのものを使った遊びのおもしろさに気づく事ができていた。また、「家でもつくりたい、遊びたい」といろいろな発見をし、「こんな遊び方もできるよ」と自分たちで新たに遊び方を考えるなど、発展した思いを持つことができた。さらに、「2年生が優しく教えてくれて作り方がわかった」と、異学年同士の交流も深まったことがうかがえた。

本単元を通じて、実際に自然に触れ、秋の自然物の不思議さに気づいたり、季節の移り変わりを実感したりすることができた。また、それらを使って自分たちで何かを作ったり、それを誰かにあげたい、教えたいと興味を持って活動することができた。自然に触れ合って遊びことの少なくなった子どもたちの遊びの幅を広げることにつながったのではないかと考える。

来年度へ向けて、第三次の交流の場面で、電子ボードやデジタルカメラなどのICTを活用し、映像化したり視覚化したりするなど、色々な紹介の仕方が考えられる。より効果的に子どもたちへ伝わるように工夫が必要である。

また、本時の活動の際、2年生がこのように説明すればわかりやすい、というように情報活用できていたので、それをモデルに、自分たちが2年生になったときに応用できるように、教わったことを抑える工夫が必要となると考える。

情報活用能力育成のための授業研学習指導案

第3学年 社会科学習指導案

箕面市立萱野東小学校

授業者 田中 孝弘

1. 日時 平成25年2月14日(木) 第3限目
2. 学年・組 第3学年3組(男子17名、女子18名)
3. 場所 3年3組教室

4. 研究仮説

情報活用の段階を意識した指導計画を立て、それぞれの段階に応じた具体的手立てを組み込んだ授業を、発達段階に応じて、経年で指導していくことで義務教育終了段階で社会に出て活用できる情報活用能力の育成が図れるだろう。

5. 授業仮説

2つの写真を比べて違いを見つけ、違いの理由を考えさせることで、情報を比較し考察する力を身につけることができるだろう。

6. 単元名

今にのこる昔とくらしのうつりかわり

7. 単元設定の理由

(1) 教材観

子どもたちにとって大切な存在である両親や祖父母。その人々が子どもだったころのくらしには、今の生活になれている子どもたちからは想像もつかない道具の使い方や人々の生活の仕方がある。今ではボタン一つで全自動運転のできる道具が多くあり便利になっている。昔は人々の手間や苦勞によってそれが補われてきた。しかしそこには昔の人々の知恵や工夫が詰まっている。子どもたちにとっては非常に興味を引く教材である。

(2) 児童観

本学級の児童はこれまでに身近な地域の様子や働く人々の仕事について学習してきた。自分の興味のあることや課題について、本を用いて情報を探したり、実際に足を運び質問をしたりして調べ学習を進めてきた。また、調べた事は絵や文章にして発表を行ってきた。

宿題でだした昔のお話を聞く課題には多くの児童が枠いっぱい聞いたことを記述しており、昔のくらしについて高い興味・関心を持っている様子が分かる。

これまでの発表内容を見てみると、様々な情報の中で選択や比較をせずに1つの情報について自分の思ったことをただ書き連ねている児童が多かった。このことからいくつかの情報を比べて選択したり、比較して違いを考えたりすることの必要性を感じている。

(3) 指導観

本単元では昔と今の道具の違いを本とインターネットを使って調べ、調べたことをもとに絵と原稿を作り発表する。調べ学習を進める中で、本以外にもインターネットを使用させ、情報機器を使った調べ方も身につけさせたい。また、本単元で大切にしたいのは「情報を比べて違いを考察する能力」を養う

ことである。1つの情報に頼って考えるのではなく、いくつかの情報を比べて自分に必要なものを選択したり、違いについてその理由を考察したりできるようになって欲しいと考えている。そこで、具体的な資料を用いて違いと違いの理由を考える時間を設定する。2つの情報を比較し違いを見出し、なぜ違うのか考えることを自身の調べたことについても活かすことができるようにしたい。

8. 単元目標

昔と今の道具を比べて自分なりに考察し、まとめて発表する。

9. 評価規準

【関心・意欲・態度】昔のくらしと道具について興味を持って調べている。

【資料活用の技能】本やインターネットを使って1つの道具の今と昔について調べることができる。

【思考・判断・表現】昔と今の道具の違いについて自分なりに考察している。

昔と今の道具について調べたことをまとめて発表している。

【知識・理解】昔の道具について調べ、昔のくらしの様子について知る。

10. 指導計画

時数	情報活用能力の分類	学習内容	関	考	表	知	評価規準
1 2 3	あつめる	・昔の道具と今の道具の変化に興味を持ち、1つの道具の昔と今についてインターネットや本で情報を集める。	○				・昔の道具に興味を持って調べている。 ・インターネットと本を目的に応じて使用することができる。
4 5	とらえる	・2つの情報を比べて、違いを考える。 ・昔と今の道具の変化を比べ、自分なりに考察をする。		○			・2つの情報を比べて違いと理由を考えている。 ・道具の変化について考察をしている。
6 7 8 9 10	まとめる	・わかりやすい発表の仕方について考える。 ・発表メモを作る。 ・発表の原稿と絵を書く。		○		○	・どうすればわかりやすい伝え方になるか考えている。 ・わかりやすい伝え方になるように原稿と絵を書いている。
11	伝える 交流する	・調べた道具について発表する。 ・友だちの発表を聞いてよかったところを伝える。	○			○	・絵や文章の構成を考え、わかりやすく伝えることができる。 ・友だちの発表を聞いてよかったことを見つけ、伝えている。
12	振り返る	・本単元の振り返りをする。				○	

11. 本時の目標

2つの情報の違いを見つけ、自分なりに考察することができる。

12. 本時 評価の観点 評価規準

思考・判断

A 2つの写真の違いについて2つ以上の理由を考えることができる。

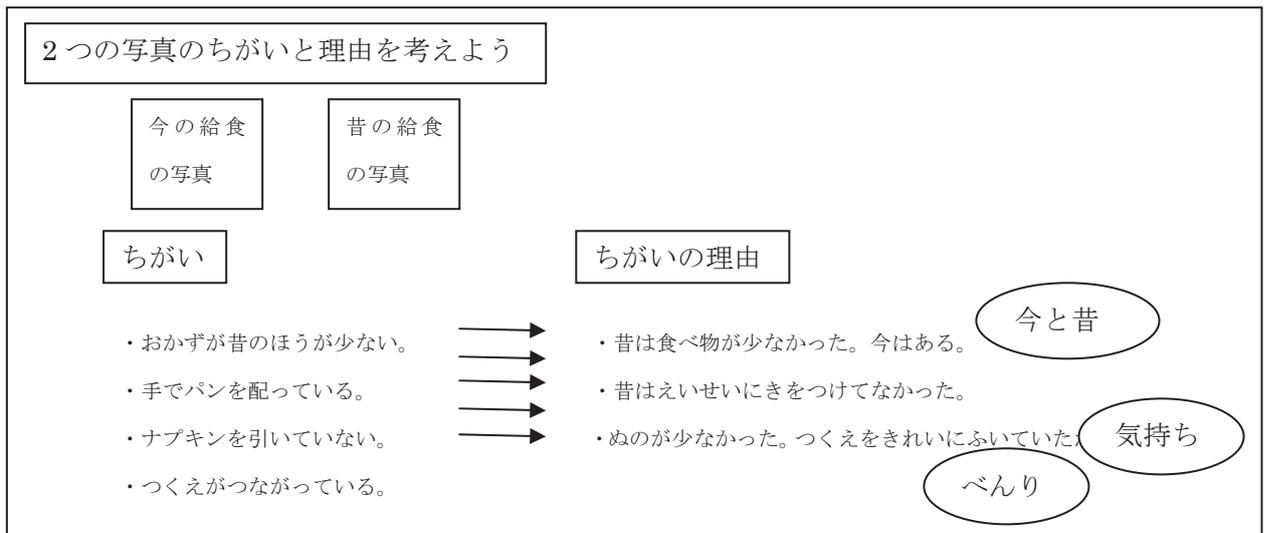
B 2つの写真の違いに気づき違いの理由を考えることができる。

C 2つの写真の違いに気づくことができる。

13. 本時の展開

情報活用 能力の分類	教師の発問・指示	予想される児童の反応・活動	指導上の留意点 支援の方法
あつめる	①この写真は何をしているところでしょうか。 ②本時のめあてを提示する。 「2つの写真のちがいと理由を考えよう」	・2つとも給食の時間の写真であることに気づく。	
	③昔と今の給食の様子について違うところを考えましょう。	・2つの写真違いを見つけ、ノートに記述している。	・違いが見つけれない児童には注目するポイントを指導する。
伝える	④全体で共有する。	・たくさんの違いがあることに気づく。	・違いを考えるのが難しい児童には今の生活と関連づけて考えさせる。
とらえる	⑤自分が1番伝えたい違いを選び、違いの理由を考えましょう。	・2写真の違いと理由について考える。	・理由を考える観点についてまとめる。
交流する	⑥考えたちがいの理由を発表しましょう。	・違いと違いの理由を発表する。	
振り返る	⑦意見を聞いて違いの理由をもう一度考えてみましょう。別の違いについて考えても良いです。	・友だちの意見を聞いて新たに気づいた違いや理由を考えて書く。	

14. 板書計画



15. 成果と課題

成果

・2つの情報を比べて違いと理由を考えるという活動を入れたことにより、自分が調べた資料についても2つの違いをみつけ考察をしようとする児童が多くなった。

課題

・違いを考える時に、その情報についての知識が十分でないために表面的な考察にとどまる児童がいた。考えを深めるために、時代背景の学習を行うなどするとよいかも。また、ちがいだけでなく同じところにいるところにも目を向けさせてもよかった。

・インターネット使用の際には、ローマ字が完全に定着していない児童らに対してヤフーキッズの簡単入力機能を使用させるなどの配慮をしておく必要があった。

・発表では分かりやすく伝えるために、発表メモや絵を使うように学習したが、より聞いている人に伝わりやすい方法として身ぶり手ぶりなどの工夫を指導してもよかった。

第6学年 総合科学習指導案

箕面市立豊川北小学校

指導者 井田淳子

1 日時 平成25年(2013年)1月17日(木)6時間目(2:35~3:20)

2 学年・クラス 6年2組(男子17名 女子21名 計38名)

3 場所 6年2組教室

4 研究仮説

情報活用の段階を意識した指導計画を立て、それぞれの段階に応じた具体的手立てを組み込んだ授業を、発達段階に応じて、経年で指導していくことで義務教育終了段階で社会に出ても活用できる情報活用能力の育成が図れるだろう

5 授業仮説

興味関心から調べてきたさまざまな職業を、「いのち」という別の視点からみつめ、分類させることで、情報を多面的に捉える力が身につき、仕事についてより深く理解することができるだろう。

6 単元名 『将来の夢』

7 単元設定の理由

(1) 指導観

卒業を目前にした、6年生児童に、卒業文集のテーマを「将来の夢」とした。本学年はこれまで、自分自身の姿や行動を振り返ってみたり将来の夢や職業について考えさせたりする機会は、必ずしも多くはなかった。そこで、本題を設定することにより、児童に自分をみつめなおしたり、将来について考えさせたりする場を与えるものである。文集を書く前に、本単元を通して、今の12歳の自分をみつめ、将来像を思い描く時間をつくることで、将来に夢を持ち、春からはじまる中学校生活を前向きに歩いていく子どもたちを育てたい。

キャリア教育の「キャリア」という言葉には、「人生を通じた経験の積み重ね」という意味が含まれている。キャリアは生涯を通じて発達していくが、小学六年生の児童には、あこがれの職業を調べることで「働くこと」や「仕事」を意識化させたい。人は働くことを通して経済的自立を達成し、働くことを通して社会とつながっていくものである。自分らしさを知り認めることで、自分の生き方や働き方を考え、社会の中で自立し、主体的に生きようとする姿勢を育てていきたい。また、人は働くことを通して社会とつながっていくものである。キャリア教育を通して、社会がまわりの人と共に生きることで成り立っていることを理解させ、自分も社会のために貢献しようとする心を育てたい。

児童の夢を大切にしながらも、その夢を広げ深めることで、未来を歩いていく強い力を身につけさせたいと考える。

(2) 児童観

本学級の男子児童の多くはプロスポーツ選手を夢としており、女子児童は看護師、保育師、ペット関係の職業につきたいという夢が多かった。なりたい職業がないという児童は少なかったものの、世の中にどんな仕事があるかと問われると、自分の力では十も思いつかない児童が三分の一を占め、改めて、自分のまわりの社会への意識の薄さを感じた。また、その希望する職業がどんな役割を担っているのか、自分の好きなこと得意なことに合っているのか、深くは考えていない様子である。

本単元では、『あしたね』サイトを主に利用して進めていく。職業を調べる活動を通して、まず、世の中にあるたくさんの職業に目を向けることで、児童の社会へ視界を広げさせたい。そして、興味を持った仕事の内容、必要な資格や技術、喜びややりがい、苦労等を調べさせることで、職業観を具体的に持ち、主体的に未来を開いていこうとする姿勢を身につけさせたい。

(3) 教材観

職業調べ学習教材『あしたね』サイトとワークシートを中心に学習を進めていく。本教材のワークシートは本単元のねらいをよく網羅している。また、ホームページにはたくさんの職業について、説明やインタビュー、リンク集がまとめられており、広くも深くも調べやすくなっている。いくつかの職業に絞って、調べる時間には、さらに『13歳のハローワーク』のページも利用して、職業観を深めさせていこうと考える。

しかしながら、サイトの情報をそのまま写して調べ学習が終わり、学習が表面的になりかねない。そこで、最終的に一つの職業に絞る段階でもう一枚ワークシートを入れ、自分の目指す人物像を踏まえて書かせること、さらにそれを作文として文章化させることを通して学習を深めていく。

『あしたね』 <http://www.ashitane.net/>

『13歳のハローワーク』 <http://www.13hw.com/>

8 単元目標

仕事について本やインターネットで詳しく調べながら関心を持ち、将来に向けての目標を持てるようにする。

9 評価規準

関心・意欲・態度 思考・判断 表現 技能 知識・理解

10 指導計画 評価計画（評価の重点化）

時数	情報活用能力の分類	内容	学習内容（ねらい）	関	考	表	知	評価規準 評価方法
	あつめる	様々なメディアや人からの情報収集能力	世の中にはとてもたくさんの種類の職業があり、社会においてそれぞれの役割があることに気づく。	○			◎	友だちと協力しあい、たくさんの職業を見つけている。
	とらえる	情報の選択・分析	自分の長所や短所に気づき、自分の性格に合った憧れの職業を見つける。 職業選択の幅を広げる。		◎			サイトを利用し、様々な職業を探している。 職業を分類している。
	まとめる	情報の加工と編集	興味のある職業について詳しく調べる。		◎			ワークシートの項目に合わせて情報を読み取り書いている。
	伝える	目的や意図に応じて、様々な形でプレゼンテーションする	卒業文集を書く。			◎		調べたことをもとに、文章に書いている。
	交流する	人と対話し練り上げる	友だちと読みあい、推敲する。		◎			もう少し詳しく書いて欲しいところを伝え合っている。
	振り返る	自分の情報活用について振り返る	本単元の振り返りをする。		◎			キャリア教育を通して考えたことを書く。

11 本時の目標

みんなが興味を持った仕事を分類することを通して、社会にはいろんな役割を担う仕事があることを理解する。

12 本時 評価の観点 評価規準

思考・判断

- A それぞれの職業の役割を考え、6つに分類し、そこから、自分たちの職業観の特徴に気づくことができる。
- B それぞれの職業の役割を考え、6つに分類することができる。
- C それぞれの職業をマップの中で探し、6つに分類することができる。

1 3 本時の展開

情報活用 能力の分類	教師の発問・指示	(予想)児童・生徒の反 応・活動	○指導上の留意点 【評価：評価方法】
<p>あつめる とらえる まとめる 伝える 交流する 振り返る</p> <p>とらえる</p>	<p>①前時の活動のふり返し</p> <p>②本時のめあてを提示 <u>興味を持った仕事を「いのち」と結びつけて分類しながら、それぞれの仕事の使命について考えよう。</u></p> <p>③「職業を『いのち』とむすびつけて考えてみよう。」</p> <p>④「みんなが興味をもった仕事を6つに分類してみましょう。」</p> <p>⑤「分類表で、仕事の数が少なかった項目にはどんな仕事が入るのか、考えてみましょう。」</p> <p>⑥まとめ 「仕事を『いのち』という視点から見ること、気がついたことを書きましょう。」</p>	<p>仕事は、社会の一員としての使命、役割があることに気づく。</p> <p>自分が興味を持った仕事3つを分類し、「いのち」の視点で、自分がどんな職業に関心があるのか考える。</p> <p>クラスで一つの表に分類をし、自分たちの関心がある職業の特徴を知る。</p> <p>グループで気がついたことを挙げ、話し合う。</p> <p>話し合ったことを、発表し、クラスで交流する。</p> <p>ワークシートに本時の振り返りを書く。</p>	<p>○指導上の留意点 【評価：評価方法】</p> <p>○ それぞれの仕事にどんな役割があるか、考えにくい場合は、マップをヒントにさせる。</p> <p>○ どこに分類されるか迷う場合は、グループで相談させ、理由をつけて一つに決めさせる。</p> <p>○ マップを見せ、自分たちがあまり興味を持たなかった仕事にも目を向けさせる。</p>

1.4 板書計画（場の設定）

みんなが興味のある仕事を分類してみましょう。

仕事 ← 興味
↑ 自分の性格
「いのち」

いのちを守る仕事 いのちを助ける仕事
いのちを育てる仕事 いのちを治める仕事
いのちを支える仕事 いのちを楽しむ仕事

守る	育てる	支える
助ける	治める	楽しむ

1.5 実践授業を終えて成果と課題

前時までの授業で、自分が選んだ職業について十分に調べ学習を行っていたので、新たな視点での分類に戸惑いつつも、滞ることなく、グループで意見を出し合い分類作業を進めていた。

分類することで、自分の興味関心の特徴を理解し、関心の少なかった種類の仕事について知ろうとする意欲がでたようである。

13歳のハローワークの仕事マップでは、職業が見つけにくかったようなので、より良い資料を模索していきたい。

情報活用能力育成のための授業研学習指導案

第5学年 自立活動指導案

箕面市立中小学校

指導者 喜多村 忠輝

1 日時 平成25年(2013年)1月17日 第5校時

2 学年・クラス 支援学級在籍の5年生4名

3 場所 箕面市立中小学校 支援学級教室

4 研究仮説

情報活用の段階を意識した指導計画を立て、それぞれの発達段階に応じた具体的手立てを組み込んだ授業を展開し、経年で指導していくことで、義務教育修了段階で社会に出てもさまざまな情報を活用できる能力の育成が図れると考えている。

5 授業仮説

写真を活用することで、その場面での具体的なエピソードを思い出しながら話すことができると思われる。また、話している児童の発音が不明瞭であったりうまく話せないことがあったりしたとしても、写真を添えていることで話の内容がおおよそ理解でき、話す内容をより正確に伝え合う力を身につけることができると思われる。

6 単元名

冬休みの思い出を伝えよう

7 単元設定の理由

(1) 教材観

特別支援学校小学部学習指導要領第7章「自立活動」の内容「6. コミュニケーション」で「(1) コミュニケーションの基礎的能力」が示されている。本単元ではこれを準用して取り組む。

本単元では、写真を活用することで、①視覚に訴えることで情報が伝わりやすい、②情報を伝える側にとっても伝えたい内容について具体的な出来事を思い出す手立てになる——という効果が期待できる。また、楽しかったことを共有しあうことで、友だちの思いや気持ちを知ることができると考えている。

(2) 児童観

児童は自分の思ったこと感じたことを相手に伝えたり、先生の質問に答えたりすることは普段の学校生活の中でそれぞれのやり方でできているが、相手と伝え合う楽しさを味わう経験は他の児童に比べて乏しいと思われる。そこで、本単元の学習を通じて、豊かなコミュニケーションの基礎としての伝える楽しさや質問したりされたりする楽しさを味わわせたい。

(3) 指導観

コミュニケーションの能力には個人差がある。発音が不明瞭な児童には写真をしっかり見せるように声かけをし、話の組み立てが難しい児童には教師がインタビューをし、原稿を書いて話せる児童にはあらかじめ原稿を書いた上で発表に臨むように、個に応じた働きかけをしていきたい。

8 単元目標

- ・楽しかった経験を友だちに聞いてもらったり友だちと互いに質問を交わしたりすることで会話を楽しみ、友達どうしのコミュニケーションをより豊かなものにする。
- ・写真を活用することで、その場面の様子を相手に伝える力を養う。

9 評価規準

- 関心・意欲・態度 進んで発表しようとしているか。楽しんで話そうとしているか。
- 思考・判断・表現 発表で写真をみんなに見やすく提示しているか。
- 技能 写真を見ながら、そのときのエピソードを分かりやすく話しているか。
質問の受け答えを的確にしているか。
- 知識・理解 写真を使うことのよさについて知ることができたか。

10 指導計画

	情報活用 能力の分類	内容	学習内容（ねらい）	関	考	表	知	時数 /分
1	あつめる	様々なメディアや人からの情報収集能力	(保護者に写真を撮ってもらう)					
2	とらえる	情報の選択・分析	(保護者に写真を選んでもらう)					
3	まとめる	情報の加工と編集	(写真をプリントアウトする)					
4	伝える	目的や意図に応じて、様々な形でプレゼンテーションする	・写真を使って冬休みの思い出について友だちに発表する ・友だちのお話を聞いて、興味を持ったことについて質問をする	○		○		2
5	交流する	人と対話し練り上げる	・友だちからの質問に受け答えする					2/2 本時
6	振り返る	自分の情報活用について振り返る						

11 本時の目標

写真を使って、冬休みの思い出を伝え合う。

12 本時 評価の観点 評価規準

【技能】 写真を見せながら、そのときのエピソードを分かりやすく話しているか。		
A 自分で写真を見せながら、教師の支援を受けずに自分でそのときのエピソードを話すことができる。	B 写真を見せながら、教師のインタビューを受けて、そのときのエピソードを一語文以上でしっかり話すことができる。	C 教師のインタビューを受けてもうまく話せないが、写真をみんなに見せることができる。

1 3 本時の展開

情報活用能力の分類	教師の発問・指示	(予想) 児童の反応・活動	○指導上の留意点
<p>伝える</p> <p>交流する</p>	<p>始めのあいさつをする。</p> <p>本時のめあてを示す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center; font-weight: bold;">写真を使って冬休みの思い出を伝え合おう</div> <p>顔写真を示して発表者を指名する。</p> <p>冬休みの思い出についての写真を渡し、発表を促す。</p> <p>1 人の発表が終わった時点で質問タイムを取る。</p> <p>「今の発表で質問したいことはありますか」</p> <p>感想を尋ねる。</p> <p>「発表を聞いてみてどんなことを思いましたか」</p> <p>終わりのあいさつをする。</p>	<p>日直が号令をかける。</p> <p>「はい」と返事をする。</p> <p>A 原稿を読むなどしてはっきりした声で話す。写真に写っている場面についてそのときのエピソードを話す。</p> <p>B 写真を見せながら、写っているものについて説明する。</p> <p>C みんなの前に立って戸惑っている。</p> <p>A 話題に沿った質問をする。</p> <p>B 話題には必ずしも沿っていないが、写真を見て気になったことを質問する。</p> <p>C 友だちが質問しているやり取りをじっと聞いている。</p> <p>日直が号令をかける。</p>	<p>○指導上の留意点</p> <p>○「これは誰かな？」と尋ねる。</p> <p>○教師が横でインタビューをする。</p> <p>○「何が写っているかな？」と発表を聞いている児童に尋ねる。</p>

1 4 板書計画（場面設定）

1 つのテーブルを囲むようにして座り、発表者が互いに近い位置でスピーチができるようにする。そうすることで、児童の発達段階に応じて、提示された写真を近くで、あるいは手にとって見るができるようにする。

1.5 成果と課題

写真を使うことでスピーチの内容に興味を持たせることができた。写真を見て「この人は誰ですか」「何のゲームをしていますか」といった質問が生まれ、児童相互のコミュニケーションの場面が生まれた。そうして会話のキャッチボールが生まれ、児童はそれを楽しんでいるようにもうかがえた。また、発表者を指名する場面で「この人は誰ですか」と問いかけると、児童がいつせいに「はい!」と喜んで手を挙げる場面もあった。写真から視覚的な情報を受け取って解釈し、解釈したことを表現しようとする姿も見受けられた。メンバーの中で比較的に知的発達の遅れが大きい児童も瞬時に答えを言おうとしていた。写真があれば話すほうも話しやすそうだった。視覚的な支援は障害の軽重を問わず有効であると感じた。

スピーチの途中で集中力がそれてしまって席を離れようとするなど、話を集中して聴くのが難しい児童もいた。日ごろの抽出指導とは形態が異なり、その児童にとって見通しが持ちにくかったと思われるので、授業の流れも分かるように情報として示しておく必要があった。

第5学年 理科学習指導案

箕面市立豊川南小学校

指導者 三宅 美典

1 日時 2012年10月10日

2 学年・クラス 5年4組(36名)

3 場所 5年4組教室

4 研究仮説

情報活用の段階を意識した指導計画を立て、それぞれの段階に応じた具体的手立てを組み込んだ授業を、発達段階に応じて、経年で指導していくことで義務教育終了段階で社会に出ても活用できる情報活用能力の育成が図れるだろう

5 授業仮説

ワープロソフトを使って、データのコピー、切り取り、貼り付けを行ったり、長い文章をタッチタイピングで入力することで、コンピュータを操作する力や情報活用の実践力の育成が図れるだろう。

6 単元名 植物の花のつくりと実や種子

7 単元設定の理由

(1) 教材観

本単元においては、植物の花のつくりや実のでき方に興味をもち、見いだした問題を計画的に追究する活動を通して、花にはおしべやめしべなどがあり、花粉がめしべの先につくとめしべのふくらんだ部分が実になり、実の中に種子ができることを理解する。また、それにかかわる条件に着目しながら調べ、花の役割や受粉と結実との関係をとらえるとともに、生命を尊重する態度を養い、生命の連続性についての見方や考え方をもつようにすることができるようにする。

(2) 児童・生徒観

理科の学習に興味・関心の高い児童が多く、自然事象や自分の体験などをすすんで発言している。一年生のときにアサガオを育てて観察したり、経験から発芽から結実までの過程などは知っている。五年生になって、条件を統一した観察・実験を行っている。植物の発芽には、水・空気・適度な温度が必要なこと、植物の成長には、日光・肥料が必要なことを学習している。

また、調べ学習などでインターネット検索をする活動はこれまでに何度も経験してきているが、ワープロソフトを使って作品を作る活動ははじめてである。長い文章を文字入力したり、画像の切り貼りなどの基本操作もほとんど経験がない。家庭での経験の差が大きいと考えられる。

(3) 指導観

- ・ 主教材のかぼちゃの花だけでなく、身近な植物の花のつくりや花粉を扱うことにより、花のつくりや花粉の理解を深めたい。
- ・ 実験の方法から結果を見通せるようなワークシートを工夫する。
- ・ デジタルコンテンツを利用して、花によってくる昆虫の姿や、風に運ばれる花粉の様子など、自分たちでは観察することが難しい事象の理解を深めたりや興味・関心を高めたりする。

8 単元目標

植物の結実のようすについて興味・関心をもって追求する活動を通して、植物の受粉と結実が関係していることについて条件を制御して調べる能力を育てるとともに、それらについての理解を図り、生命を尊重する態度を育て、植物の結実の条件についての見方や考え方をもつことができる。

ワープロソフトを使って単元のまとめをすることで、情報活用の基本技能を習得する。

9 評価規準

- 植物の花のつくりと実や種子のでき方に興味・関心をもち、そのしくみを自ら調べようとしている。[関心・意欲・態度]
- 顕微鏡を適切に操作して、花粉を観察している。植物の結実について、条件を整えて実験を行い、その過程や結果を記録している。[観察・実験の技能]
- 観察や実験結果を考察し、自分の考えを表現している。[科学的な思考・表現]
- 植物の花のつくりや植物の結実のようすについて理解している。[知識・理解]

10 指導計画 評価計画 (評価の重点化)

時数	情報活用 能力の分類	内容	学習内容 (ねらい)	関	技	考 ・ 表	知	評価規準 評価方法
7	あつめる	様々なメディアや人からの情報収集能力	「花のつくり」「花粉のはたらき」について観察や実験を通して学習を深める。	○	○	○	○	[関]自ら調べようとしたり、実験しようとしている。<行動観察・発言分析>[技]顕微鏡を適切に操作して観察している。実験結果を適切に記録することができる。<行動観察・記録分析>[考・表]観察や実験結果を考察し、自分の考えを表現している。<発言分析・記録分析>[知]花のつくりや花粉のはたらきについて理解している。<発言分析・記録分析>
1	とらえる	情報の選択・分析	資料として提示されたいくつかの静止画の中から自分に必要な静止画を選択する。画像の説明やまとめを考える。記事の小見出しを考える。		○	○		[技]自分が必要とする静止画を選ぶことができる。[考・表]内容にあった小見出しをつけている。<記録分析>
2 (本時)	まとめる	情報の加工と編集	画像と文章の配置を工夫してまとめる。		○	○		[技]ワープロソフトでコピー、貼り付け、切り取り、画像の挿入ができる。タッチタイピングができる。<行動分析・記録分析>[考・表]レイアウトを工夫してまとめている。<記録分析>
1	伝える	目的や意図に応じて、様々な形でプレゼンテーションする	小グループで新聞を読みあう。					[関]友だちの新聞のよいところを進んで見つけようとする。
	交流する	人と対話し練り上げる	互いの感想(工夫やアドバイス)を交流する。	○		○		<行動分析・記録分析>[考・表]友だちの新聞の良いところを見つけたら、アドバイスすることができる。<発言分析・記録分析>
	振り返る	自分の情報活用について振り返る	学習内容のふりかえり、新聞づくりのふりかえりをして感想をワークシートに書く。					

11 本時の目標

- ワープロソフトで画像の挿入、コピー、貼り付け、切り取りができる。
- レイアウトを工夫してまとめている。

1.2 本時 評価の観点 評価規準

【技】ワープロソフトで画像の挿入、コピー、貼り付け、切り取りができる。

A：画像の挿入が自在にでき、説明や自分の考えなど長い文章（約 400 字）をタッチタイピングで入力することができる。

B：画像の挿入ができ、説明や自分の考えなどをタッチタイピングで入力することができる。

【考・表】レイアウトを工夫してまとめている。

A：画像を拡大、縮小したり、文字のフォント、大きさや色を工夫したりして見やすくレイアウト

1.3 本時の展開

情報活用 能力の分類	教師の発問・指示	(予想)児童・生徒の反応・ 活動	○指導上の留意点 【評価：評価方法】
とらえる	<ul style="list-style-type: none"> ● 各自のPCを起動してログインして、キューブきっずを開きましょう。 ● 前時に選んだ写真とその記事を新聞形式にまとめます。 ● 画像の挿入のし方を説明します。 		
まとめる	<ul style="list-style-type: none"> ● 一つ目の写真を選んで貼り付けましょう。 ● 文章を入力しましょう。 →文字や写真のコピー、切り取り、貼り付けの方法を説明する。 ● 各自で作業しましょう。 	(自力活動) <ul style="list-style-type: none"> ・ 資料を集めたフォルダから必要な写真を選んで、挿入する。 ・ 文章を入力する。 ・ 自分のペースで作業をすすめる。 	○教師のPC画面を生徒機に転送、または、前の大型画面で映して操作場面を見せる。 ○大型画面に、手順を提示しておく。 ○個別に机間支援しながら対応する。
伝える 交流する	<ul style="list-style-type: none"> ● 友だちの新聞を見合って、よいところやアドバイスを交流しましょう。 	(交流活動) <ul style="list-style-type: none"> ・ 友だちの途中経過を見合い、感想やアドバイスを交流する。(グループ活動)時間があれば、全体での交流もする。 (他者評価) 	【技：行動分析・記録分析】 【考・表：発言分析・記録分析】
振り返る	<ul style="list-style-type: none"> ● 友だちの新聞を見て、よかったところを自分の新聞づくりにいかしていきましょう。 	(評価活動) <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の新聞づくりをふりかえり、友だちから学んだことを次時にいかそうとする。(自己評価) 	

1.4 板書計画（場の設定）

大型画面に作業の手順を示しておく

1.5 実践授業を終えて成果と課題

作業の進み具合に大きな差がでた。家庭でどれだけパソコンを使っているかが、子どもたちの技能の差となり表れていたように感じた。しかし、今回のように授業で取り組むことで、基本操作を全員が習得することができたことは成果である。できあがった作品はどれも見栄えよく、達成感もあった。今回習得した技能を定着させるためには、間をあげずにまたパソコンを使っての取り組みが必要と考える。しかし、なかなか時間がとれないことが実態である。

支援学級第4, 5, 6学年 国語科学習指導案

(箕面市立萱野北小) 学校

指導者 丸山 智美

1 日時 平成24年12月10日

2 学年・クラス 4, 5, 6年 (3 名)

3 場所 学習室

4 研究仮説

情報活用の段階を意識した指導計画を立て、それぞれの段階に応じた具体的手立てを組み込んだ授業を、発達段階に応じて、経年で指導していくことで義務教育終了段階で社会に出ても活用できる情報活用能力の育成が図れるだろう

5 授業仮説

着目すべき点に吹き出し付けた写真という手だてを提示することにより、情報を活用した聞く力・話す力の育成をはかれる。

6 単元名 はなしたいなききたいな

7 単元設定の理由

(1) 教材観 【学習指導要領との関連】

重点的指導事項は、A話す・聞く (1) エ「大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くこと」である。言語活動は、A(2)ア「経験の報告をしたり、それを聞いて感想を述べたりすることに対応する。」

【教材の系統 教材に対する認識や理解】

本教材では、したこと、そのときの様子、感想を話す学習をし、聞き手は共感的に聞き、質問や感想を述べることを学ぶ。

(2) 児童・生徒観

日々の活動の中で気持ちの学習をし、今の自分の気持ちについて話をする機会は多くもっている。休みの日にしたことを発表することもあるが、話すのが苦手な児童はどうしても固まってしまう。また、話すことができる児童もしたことのみのお話になるなど、相手に伝わりづらい。また、質問の内容も話した内容にそぐわないことを質問しがちなので、写真を手だてに話したり聞いたりすることのきっかけ作りとしたい。

(3) 指導観 具体的な指導方法を明確に記入

話すことや聞くことが苦手な児童に、吹き出し付きの写真を手だてとして提示することにより話しやすく、質問内容も考えやすくすることができるであろうと考えている。

8 単元目標

- ・出来事の様子とその時の気持ちをみんなの前で話す。
- ・話を聞いて感想を述べたり質問したりする。

9 評価規準 国語（関心・意欲・態度・休みの日のスピーチを、楽しんで話したり聞いたりしようとしている。

- 話す・聞く能力
- ・話したい出来事を選んでいる。
 - ・出来事の様子とその時の気持ちを整理して話している。
 - ・全員に聞こえるような声の大きさではっきりと話している。
 - ・友達の話を興味を持って聞き、感想を述べたり質問したりしている。

10 指導計画 評価計画（評価の重点化）

時数	情報活用能力の分類	内容	学習内容（ねらい）	関	考	表	知	評価規準 評価方法
	あつめる	様々なメディアや人からの情報収集能力	休みの日に行った場所や、何かに取り組んでいる様子の写真を保護者の協力を得て家で撮る。	○				話すこと的话题を見つけるために、写真を撮っている。
	とらえる	情報の選択・分析	撮った写真の中から、話したいものを選ぶ。		○			どんなことを話すとよいかを考えている。
1	まとめる	情報の加工と編集	写真の中の着目すべき点に吹き出しを付ける。		○			特に話したいことを考えている。
1	伝える（本時）	目的や意図に応じて、様々な形でプレゼンテーションする	写真を電子黒板に映し、その時したことや様子、感想を発表する。			○		休みの日のことを楽しく話そうとしている。 休みの日にしたことやその時の気持ちをはっきりと話している。
1	交流する	人と対話し練り上げる	友だちの発表を聞いて質問する。		○		○	友達の話を楽しく聞こうとしている。 友達の話を興味を持って聞き、質問している。
	振り返る	自分の情報活用について振り返る						

11 本時の目標

- 写真を見て、話をするができる。
- 友だちの話を聞いて、質問することができる。

12 本時 評価の観点 評価規準

- 【関心・意欲・態度】休みの日のスピーチを楽しんで話したり聞いたりしようとしている。
- 【表現・技能】写真の吹き出しを見て、話をするができる。
- 【知識・理解】友達の話を聞いて、質問をするができる。

1 3 本時の展開

情報活用 能力の分類	<ul style="list-style-type: none"> 今日は撮ってきた写真を電子黒板に映して、何をして、どうしたのか、その時はどんな気持ちだったのか 	(予想)児童・生徒の反応・活動	○指導上の留意点 【評価：評価方法】
	<p>これは、誰の写真ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 写真を見てお話をすることを考えて下さい。→自力活動 順番に発表してもらいます。→全体交流 今のお話を聞いて、思ったことや聞きたいことはありませんか。→他者評価・全体交流 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の写真を見て、何の写真か思い出す。 お話をすることを考える。 発表する。 友だちの発表を聞く。 質問することを考える。 質問する。 	<ul style="list-style-type: none"> 順番に電子黒板に写真を映して、誰の写真か確認させる。 何をして、どうして、どんな気持ちだったのか話すような助言を入れる。 黒板に、①ぼくは○○をしました。②どんなことがあったか③思ったこと と言った話す手だてを書いておく。 それでもうまく話せない児童には、教師が助言して道筋を立てる。 黒板に、①思ったこと②詳しく聞きたいこと と言った質問する手だても書いておく。

1 4 板書計画（場の設定）

きくととき ② ① くわしくききたいこと おもったこと	はなすとき ③ ② ① おもったこと どんなことがあったか ぼくは ○○をしました。
--------------------------------------	--

1 5 実践授業を終えて成果と課題

吹き出し付きの写真を使うことによって、普段何を話して良いのかわからなくなる児童も、写真を手がかりに話をすることができた。

写真を電子黒板に映して拡大することによって、みんなで共有し、聞いている児童も質問を考える手がかりとなった。

第3学年 算数科学習指導案

(とどろみの森学園) 学校
指導者 吉村 淳史

1 日時 2012年12月

2 学年・クラス 3年1組(32名)

3 場所

4 研究仮説

情報活用の段階を意識した指導計画を立て、それぞれの段階に応じた具体的手立てを組み込んだ授業を、発達段階に応じて、経年で指導していくことで義務教育終了段階で社会に出ても活用できる情報活用能力の育成が図れるだろう

5 授業仮説

ワンノート、タブレットパソコンを使用することで、一人で課題解決する力や話し合う力が伸長するだろう。

6 単元名

「分けた大きさの表し方を考えよう」

7 単元設定の理由

(1) 教材観

本単元で扱う分数は、学習指導要領には以下のように位置づけられている。

第3学年 A数と計算

(6) 分数の意味や表し方について理解できるようにする。

ア 等分してできる部分の大きさや端数部分の大きさを表すのに分数を用いること。また、分数の表し方について知ること。

イ 分数は単位分数の幾つかで表せることを知ること。

ウ 簡単な場合について、分数の加法及び減法の意味について理解し、計算の仕方を考えること。

児童は第2学年第11単元「分数」で、折り紙を半分に折ったり、半分に折った折り紙をさらに半分に折ったりといった具体的な操作を通して、 $\frac{1}{2}$ 、 $\frac{1}{4}$ 、 $\frac{1}{8}$ などの簡単な分数について学習している。また、第3学年第12単元「小数」で、単位量に満たないはしたの量を、小数を用いて表すことを学習している。

本単元では、上記の学習をふまえて分数の意味を拡張し、分数を用いれば任意の単位を作れることを学習する。この、「任意の単位を作れる」ということは、分数の良さである反面、児童にとっては、困難に感じる点でもある。

人数や個数のような分離量の大きさを表すには、整数だけで十分である。しかし、長さ、体積、重さなどの連続量の大きさを表すには、整数だけでは不十分である。なぜなら、単位量に満たないはしたの量が出るからである。このはしたの量を数値化することの必要性を理解することが大切であることは、小数の導入時と同様である。また、単位を任意に等分することから、実際に児童が活動しやすく、視覚的にとらえやすいようにするために、導入素材として長さを扱う。そこから等分を意識させた後に、分数の理解を図り、数へと意識を高めていきたい。

(2) 児童・生徒観

本学級の児童は、素直で、課題に対して意欲的に取り組む姿勢がみられる。しかし、課題が難解すぎて解決の糸口が見えなかったり、課題の表現が適切でなかったりすると、何をしたいのか分からず、課題に向き合えないという場面がみられることがある。

そこで、一人一人に合わせて、数段階に分けたヒントカードを用意し、必要に応じて渡していくことで課題解決の糸口をつかませ、どの児童も意欲的に取り組めるのではないかと考えた。

また、本学級の児童の課題として、聞く力の弱さがある。友だちの意見を聞く時や、先生の話聞く時に、聞きもらしたり、聞いていても理解できていない場面がみられることがある。

そこで、学びあいの場面において、「友だちの意見を発表する」という場面を設定した。こうすることで、聞く力、聞いたことを理解する力、そして聞いたことを表現する力を伸ばせるのではないかと考えた。

(3) 指導観 具体的な指導方法を明確に記入

指導に当たっては、まず具体物を用いた作業的な活動、性質を見つける探究的な活動、自分の考えを書く、友だちに説明するなどの表現活動を積極的に取り入れた学習を展開する。これらのような活動に主体的に取り組ませることで、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図り、数学的な思考力、判断力を育み、表現力を伸ばしていきたい。

具体的には、授業の中で、自力解決場面と、学び合い場面を設定する。

自力解決場面では、与えられた課題を自力で解決し、その解決に届くまでの思考の流れを言葉や図、線分などで表現することに取り組ませる。こうすることで、思考力・判断力を育み、それを表現する力を伸ばしていきたい。

学び合いの場面では、ペアやグループでそれぞれの児童が、自身の思考を相手に説明し、お互いに相手の考えを聞きあう。その後、学級全体での学び合いを行う。その際は、必要に応じて、自分の意見だけでなく、友だちの意見を発表するような場面を設定する。そうすることで、説明を受けて理解する力や、相手の意見を聞く力を養っていきたい。

自力解決の難しい児童については、ヒントカードを用意し、自力解決の手助けを行う。児童はヒントによって閃き、自力で解決したという経験を味わい、その成功体験によって、自己肯定感を高め、学習への興味関心意欲を高めたい。

8 単元目標

分数の意味や表し方、分数の加法および、減法の意味について理解する。

9 評価規準

関心・意欲・態度

- ・分数を用いると、整数で表せない等分してできる部分の大きさや、端数部分の大きさを表せる良さに気づき、生活や学習に用いようとする。

数学的な考え方

- ・分数は都合に応じて単位量を n 等分した 1 個分を単位としていることをとらえ、分数の表し方や分数の下限計算の仕方を考え、表現することができる。

技能

- ・等分してできる部分の大きさや端数部分の大きさを分数を用いて表すことができる。

知識・理解

- ・分数が用いられる場合や分数のあらわし方について知り、分数の意味や分数の加法及び減法の意味について理解する。
- ・端数部分を表す数として、小数と分数があることを知り、 $1/10$ の位までの小数と分母が 10 の分数の関係について理解する。

10 指導計画 評価計画（評価の重点化）（取組まない段階は抜き、2段階で取組む場合は追加）

時数	情報活用能力の分類	内容	学習内容（ねらい）	関	考	表	知	評価規準 評価方法
	あつめる	様々なメディアや人からの情報収集能力						
	とらえる	情報の選択・分析						
	まとめる	情報の加工と編集						
	伝える	目的や意図に応じて、様々な形でプレゼンテーションする						
	交流する	人と対話し練り上げる						
	振り返る	自分の情報活用について振り返る						

11 本時の目標

分数の加法の計算の仕方について理解し、それらの計算ができる。

12 本時 評価の観点 評価規準

- A層 ワンノートを用いて考えをまとめたり、ワンノートを活用して友だちに積極的に説明することができる。
- B層 ワンノートを用いて考えをまとめたり、サーバーにアクセスしてヒントカードを見ることができる。
- C層 ヒントカードを用いて、課題解決のための考えを持つことができる。

13 本時の展開

	教師の発問・指示	指導上の留意点	評価方法
ねらいの提示	ジュースが $3/10L$ と $2/10L$ あります。合わせて何Lになるか説明しましょう。		
課題設定	分数の足し算ができるようになることをつかむ。		
見通す	小数の計算に振り返り、分数の計算の見通しを持つ。	既習内容を振り返り、小数では面積図や線分図、 0.1 のいくつ分という風に考えたことを想起させる。	

自力解決	ワンノートに、立式し、どのように考えて計算すれば解答できるかを考え、ワンノートに考えを書く。	自力で考えを書くことが難しい児童や、考えを持つことが難しい児童はヒントカードにアクセスしヒントを得るように声かけを行う。	単位分数の何個分で考えると、整数と同じように分数の加減計算ができることを式や図を用いて考え説明したり、まとめたりしている。
学び合う	ペアでお互いの考えを発表しあう。その際にワンノートにメモをとりながら聞く。	発表の時に、ペアの相手の考えを発表することを伝え、メモをとりながら交流するよう指導する。	
	ペアの相手の意見をみんなの前で発表する。	友だちの意見を発表する。	
確かめる	教科書52ページ1番の問題を解く	学習したことの定着をはかる。	分数の加減計算の仕方を理解している。
振り返る	学んだこと、わかったこと、わからなかったこと、不思議に思うことを書く		

1.4 板書計画（場の設定）

1.5 実践授業を終えて成果と課題

無線の状態に応じて授業の進行が左右されるため、不安定さがある。

ワンノートはカラーペンなどを使用できるので、子どもたちは自分で工夫しながら自分の考えを表現していた。

児童は自身の必要に応じてヒントカードを見て、課題解決に取り組むことができた。

第1学年 生活科学習指導案

(彩都の丘小) 学校
指導者 上野 広司

1 日時 平成24年5月17日

2 学年・クラス 第1学年(38名)

3 場所 6号公園予定地

4 研究仮説

情報活用の段階を意識した指導計画を立て、それぞれの段階に応じた具体的手立てを組み込んだ授業を、発達段階に応じて、経年で指導していくことで義務教育終了段階で社会に出て活用できる情報活用能力の育成が図れるだろう

5 授業仮説

身近な公園予定地を訪ね、ウォークラリー形式でチェックポイントを回る活動によって、楽しみながらかつ意欲的に五感で春を感じるとともに、実際に公園作りに関わっている人から話を聞く機会を設けることで、正しい情報源から情報を入手する力の育成が図れるだろう

6 単元名 「公園予定地に行ってみよう」

7 単元設定の理由

(1) 教材観 学習指導要領との関連 教材の系統 教材に対する認識や理解

春の自然が残された公園予定地で、身近な動植物の様子を観察したり、公園を作っている人と関わったり、春の草花や樹木、虫などの自然にふれる活動を通して、自然遊びのおもしろさやふしぎさに気付くとともに、今からできあがっていく自分たちの校区内の公園に愛着を持つことができる単元である。

(2) 児童・生徒観 学級集団の実態、気になる子どもの実態 レディネス

1年以外はずべて単学級で、前期(1~4年)は昨年度から人数が倍増したとはいえ、合計110名程度の小さな集団である。また、兄弟関係が多いことや、校区がまだ半分しか開発されていないこともあって遊び場所が重複することが多く、学校内に限らず放課後や休日にも異年齢集団で遊ぶ場面が多々見られる。

本単元のような季節ものや前期遠足のような単発の行事だけでなく、毎週水曜の朝に行う前期集会をなど、普段から活動を一緒にすることは多い。3・4年の児童は縦割りグループにおいては自然とリーダーシップを発揮することができ、1・2年はそのリードに触発され頑張っているという雰囲気ができている。

(3) 指導観 具体的な指導方法を明確に記入

縦割りグループを設定し、発達段階の違う1~4年生の全員が楽しめるように、4つのミッションをクリアしていく形をとった。縦割りグループにすることによって、前期のメンバーの交流を深める一助となると考える。3・4年生のだれもが前期のリーダーとしての自覚を持ち、下の学年を思いやる態度が育つとともに、1・2年生は安心して活動に参加することができ、集団行動での望ましい態度を身近なリーダーから学ぶことができる。

8 単元目標

- ・五感で春を感じる（1年）

春の自然が残された公園予定地で、身近な動植物の様子を観察したり、公園を作っている人と関わったり、春の草花や樹木、虫などの自然にふれる活動を通して、自然遊びのおもしろさやふしぎさに気付くとともに、今からできあがっていく自分たちの校区内の公園に愛着を持つ。

- ・前期のメンバーの交流（1～4年共通）

新しくなった前期のメンバーの交流を図ると共に、新3・4年生は前期のリーダーとしての自覚を深め、新1・2年生は縦割りグループでの活動に慣れる。

9 単元の評価規準

生活への関心・意欲・態度

- ・春の自然や校区内にできる公園の完成に興味を持ち、楽しく遊ぶなど活動している。

活動や体験についての思考・表現

- ・身近な自然やそれを五感で感じることによって、それをすなおに表現している。

身近な環境や自分についての気付き

- ・春の自然の特徴や変化に気付いている。

10 指導計画 評価計画（評価の重点化）（取組まない段階は抜き、2段階で取組む場合は追加）

時数	情報活用能力の分類	内容	学習内容（ねらい）	関	考表	気付	評価規準 評価方法
1	あつめる	様々なメディアや人からの情報収集能力	公園予定地に行く計画を知ろう	○			校区内にある公園予定地に行く興味を持ち、発言している。（発表、ワークシート）
2 本時	とらえる	情報の選択・分析	公園づくりにかかわる人の話をヒントに、春を感じるものを見つけよう			○	五感を使って春の草花や鳥を観察したり、公園を作っている人と関わったりして、班のメンバーと楽しく遊んだり活動したりしている。（行動、会話）
2	振り返る	自分の情報活用について振り返る	春を感じたものをふりかえろう 春を味覚で味わおう		○	○	見つけた自然物の色や形、においなどの特徴をみんなに発表したり、ワークシートにかいたりしている。（記録、発表）

11 本時の目標

- ・グループの人と協力して、春見つけをしよう

1.2 本時 評価の観点 評価規準

	(A層)	(B層)	(C層)
気付き	五感を使って春の草花や鳥を観察したり、公園を作っている人と関わったりして、不思議に思ったことを尋ねたり、グループのメンバーと楽しく遊んだり活動したりしている。	五感を使って春の草花や鳥を観察したり、公園を作っている人と関わったりして、グループのメンバーと楽しく遊んだり活動したりしている。	五感を使って春の草花や鳥を観察することや、公園を作っている人との関わりがみられない。また、グループのメンバーと協力して活動ができない。

1.3 本時の展開

情報活用 能力の分類	教師の発問・指示 ○は児童の活動	(予想)児童・生徒の反応・ 活動	○指導上の留意点 【評価：評価方法】
とらえる	公園予定地で、五感を使い春を感じよう。 ・春見つけのミッションを伝える。 ○班に分かれてウォークラリーを始める。		
交流する	○ポイントにいる市役所や UR の人から話やヒントを聞き、ワークシートに書かれたミッションをクリアしていく。 (4つのミッション) ①耳を澄まして聞いてみよう 「彩都の丘の音を探そう」 ②目で見てみよう！ 「丘の上から素敵な景色をながめよう」 ③いいにおいをさがそう！ 「ニセアカシア（白い花）においをかごう」 ④さわってかんじてみよう 「ヨモギを探してつもう」 ○学校にもどって活動をふり返ろう。	「ここは公園（予定地）のどこになるのですか」 「鳥の音がきこえる」「何の鳥の鳴き声だろう」 「学校が見えるよ」 「甘いにおいがするよ」 「葉の裏が白いよ」 「全部のミッションクリアできたよ」「五感の口が残っているよ」	○チェックポイント間にたち活動を促すとともに、事故を防ぐ。 【評価：観察、WS】五感を使って春の草花や鳥を観察したり、公園を作っている人と関わったりして、グループのメンバーと楽しく遊んだり活動したりしている。 ※C層には声かけを行い、一緒に活動して何をしたらいいか理解させる。
振り返る			

1.4 板書計画（場の設定）

ワークシートを使用。

音楽科学習指導案

箕面市立第二中学校

指導者 中野 淳

1. 日時：2月5日（火）

2. 学年：2年3組（38名）

3. 場所：コンピュータ室

4. 研究仮説

情報活用の段階を意識した指導計画を立て、それぞれの段階に応じた具体的手立てを組み込んだ授業を、発達段階に応じて、経年で指導していくことで義務教育終了段階で社会に出ても活用できる情報活用能力の育成が図れるだろう

5. 授業仮説

インターネットを活用して調べ学習を行うことで、情報を選択する力の育成が図られるだろう

6. 単元名：インターネットを活用して、音楽の歴史をたどろう

7. 単元設定の理由

(1) 教材観

西洋音楽史の導入にあたって、調べ学習を行う。西洋音楽史では、古代、中世、ルネサンス、バロック、古典派、ロマン派、国民楽派（後期ロマン派）、近代・現代に区分される。授業では、①古代、中世、ルネサンス②バロック③古典派④ロマン派⑤国民楽派（後期ロマン派）⑥近代・現代の6つのグループに分けて取り扱う。

(2) 生徒観

音楽に対する興味・関心があり、特に歌うことが好きなクラスである。クラスの状況としては、落ち着いたクラスであり、自分たちで注意をしかうことができる。支援が必要な生徒もいるが、今回は班学習が中心となるので、班の仲間と協力しながら活動をさせたい。

(3) 指導観

音楽史は受け身学習になりやすい分野である。そのため、導入で調べ学習を行うことによって、生徒たち自ら活動をとおして興味・関心をもつことができ、西洋音楽史について、時代ごとの音楽の特徴を理解することができるだろう。

8. 単元目標

西洋音楽史について、時代ごとの音楽の特徴を理解する。

9. 評価基準

4観点（関心・意欲・態度、思考・判断・表現、技能、鑑賞の能力）

10. 指導計画 評価計画

時数	情報活用能力の分類	内容	学習内容 (ねらい)	関	考	表	鑑	評価基準 評価方法
40分	あつめる	様々なメディアや人からの情報収集能力	・古代・中世、ルネサンス、バロック、古典、ロマン、近代・現代について調べる。 ・インターネットを活用して情報を集める。	○				観察
20分	伝える	目的や意図に応じて、様々な形でプレゼンテーションする	・班ごとに、調べた時代の特徴とその時代の曲について発表する（グループ発表）。			○		発表
30分	交流する	人と対話し練り上げる	・調べたものを班の中で交流し、発表に向けてまとめる。 ・班の中で、発表のときの役割分担を決める。		○			観察
10分	振り返る	自分の情報活用について振り返る	・発表を聞き、わかったこと、気づき、感想をワークシートにまとめる。		○			ワークシート

11. 本時の目標

西洋音楽史に興味・関心をもち、意欲をもって調べ学習に取り組むことができる。

12. 評価の観点、評価基準（本時）

【音楽への関心・意欲・態度】

西洋音楽史に興味・関心をもち、意欲をもって調べ学習に取り組む。

1 3. 本時の展開

情報活用 能力の分類	教師の発問・指示	生徒の反応・活動	指導上の留意点 【評価：評価方法】
あつめる	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の歴史はいくつに区分されるとおもいますか？ ・調べる時代をくじで決定する（班単位）。 ・班の中で、時代背景を調べる人（音楽の動きに限定する）と、音楽の種類（ピアノ曲、交響曲など）について調べる人を分ける。 ・音楽はお気に入りに保存し、すぐに聴けるようにする。 	<p>4つ（授業ですでに学んでいるもの） わからない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班の中での役割分担を決める。 ・インターネットを活用して情報を集める（自力活動、交流活動）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽史の概要を説明 ・【音楽 ○○時代】と入力し、検索させる。 ・必要に応じて、検索するキーワードを教える（机間指導）。
交流する (まとめる) (振り返る)	<ul style="list-style-type: none"> ・全員に発言の機会をつくらせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集めた情報を班で交流する（交流活動）。 ・交流で出た意見をワークシートにまとめる（評価活動）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて助言する（机間指導）。 ・ワークシートの配布、回収。

1 4. 板書計画

<p>西洋音楽の歴史をたどろう</p> <p>目標：西洋音楽史の分類について理解する。</p> <p><西洋音楽史の分類></p> <p>①古代・中世・ルネサンス</p> <p>②バロック</p> <p>③古典派</p> <p>④ロマン派</p> <p>⑤国民楽派（後期ロマン派）</p> <p>⑥近代・現代</p>	<p><手順（流れ）></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 班の担当を①～⑥の中から決める（くじ） 2. 班の中で、時代背景を調べる人と、音楽の種類を調べる人にわける 3. インターネットを活用して情報を集める 音楽はお気に入りに保存し、すぐに聴けるようにしておく 4. 班で情報を交流し、ワークシートにまとめる
---	--

15. 実践授業を終えて成果と課題

今回3年生で授業をやる予定だったが、内容が導入ということもあり2年生に変更した。音楽で初めてコンピュータを使った授業をおこなったので、教師の不慣れを感じた。成果としては、興味・関心がわきにくい音楽史を、班活動をとおして調べ学習・発表を行うことによって、音楽史に対する抵抗をなくすことができた。課題としては、調べることを限定していても情報量が膨大になるので、まとめるときに戸惑う班が多く見られた。そのため、何か1つに焦点をあてることが大切になり、教師の的確なアドバイスも必要になると感じた。また、音楽の授業が週1回ということもあり、調べ学習・発表に使える時間も限られており、内容が浅くなってしまった。

本単元を通じて、目標においていた興味・関心はもつことができたので、次年度以降につなげていきたい。また、内容理解については、再検討が考えられる。

インターネットを活用して、音楽の歴史をたどろう♪

() 班

調べる時代：()

調べる内容：時代背景（音楽の動きに限定）・音楽の種類（ピアノ曲、交響曲など）

自分が調べるほうに○をする

・メモ

--

・班で出た意見をまとめよう

手順1：時代背景と音楽の種類に分けて、話を進める。

手順2：話し合いの中で、特に重要であると思うことをワークシートにまとめていく。

手順3：音楽の種類では、発表のときに流す曲も決定する。

時代背景
音楽の種類
流す曲

第三学年 技術科学習指導案

箕面市立第三中学校

指導者 天岸大輔

1 日時 平成25年 2月21日(木) 2限(9:45~10:30)

2 学年 3年B組 (37名)

3 場所 情報教室

4 研究仮説

情報活用の段階を意識した指導計画を立て、それぞれの段階に応じた具体的手立てを組み込んだ授業を、発達段階に応じて、経年で指導していくことによって義務教育終了段階で社会に出て活用できる情報活用能力の育成が図れるだろう

5 授業仮説

ソフトウェア(デジピクチャープラスプライム)を使用した授業を行うことで、情報機器の活用能力の向上を図るとともに、情報機器活用の興味、関心をもたせる

6 単元名 応用ソフトウェアの活用 (合成写真の作成)

7 単元設定の理由

(1) 教材観 学習指導要領との関連 教材に対する認識や理解、また興味や関心

(2) 児童・生徒観 教材を活用できているかにより、情報機器活用の不得手を把握
自身の能力を発揮できているか

(3) 指導観

写真の合成を行えるソフトウェアを使い、興味や関心を図り、実際にソフトウェアウェアを活用して写真の合成を生徒にみせ認識や理解を図る。(プロジェクターでみせる)
認識や理解の行き届かない生徒に対しては、個別に指導をして単元目標の達成を目指す。

8 単元目標 教材(ソフトウェア)の活用を理解し、情報機器の活用能力を向上させる。

9 評価基準 4観点(関心・意欲・態度 ソフトウェアを使い作品の表現 情報機器の活用能力
ソフトウェアに対する理解)

1 0 指導計画 評価計画 (評価の重点化)

時数	情報活用能力の分類	内容	学習内容 (ねらい)	関	考	表	知	評価基準 評価方法
	あつめる	様々なメディアや人からの情報収集能力	ソフトウェアについての理解	◎			◎	説明を理解できているか
	とらえる	情報の選択・分析	題材にあった画像選び		◎	◎		著作権を守れているか
	まとめる	情報の加工と編集	写真と写真を合成			◎		不自然な箇所が少ない
	伝える	目的や意図に応じて、様々な形でプレゼンする	合成した写真を、作品に貼り付けて題材との相互関係をもたせる		◎			
	交流する	人と対話し練り上げる	周囲の友人と、自分の作品を比べて追及させる	◎	◎			
	振り返る	自分の情報活用について振り返る	全員の作品と自分の作品をみせて、自身の能力を理解させる				◎	よくできている作品をみせて、できていない箇所を伝える

1 1 本時の目標 応用ソフトウェアの正しい使い方を理解し、自身の情報活用能力の有無を図らせる。

1 2 本時の展開

	教師の発問・指示	(予想) 生徒の反応・活動	指導上の留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶、出欠確認、服装チェック ・本時の流れ、保存方法 ・プロジェクターを使い、本時の模範を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・前を向き、話を聞く 	話を聞くことに集中させる。そうしなれないにもできない
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・背景にする写真をインターネットから探させる。(著作権フリーの画像のみ) 写真が決まったら保存させる。 ・応用ソフトウェア (デジピクチャープラスプライム) を開かせて、「開 	<ul style="list-style-type: none"> ・細かい作業が続くので、質問の嵐 ・内容の理解できない生徒の対応 ・まったく違うことを始め 	<ul style="list-style-type: none"> ・集中力がないので、何か集中させるための秘策が必要

	<p>く」項目から先ほど保存した写真とあらかじめ用意しておいたクラス写真を合成させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合成完了できたら、保存させる。 ・合成写真を自分新聞に貼り付けさせて終了。 	<p>る生徒への指導</p>	
まとめ	<p>作業が終了している生徒とそうでない生徒も保存させてからシャットダウン。</p>		

1.4 実践授業を終えて成果と課題

集中力の継続が困難ではあるが、作品自体は個性があり非常に面白いものができた。

課題としては、やはり授業時数の欠如があげられる。作業工程をもっとコンパクトにするべきであった。

毎時間作業が終了するように、授業を考案する必要がある。

情報活用能力育成のための授業研学習指導案

第2学年 数学科学習指導案

箕面市立第五中学校
指導者 上山 佐弥佳

1. 2013年(平成25年)2月14日木曜日 3限目
2. 2年C組 34名(男子16名 女子18名)
3. 2年C組教室
4. 研究仮説

情報活用の段階を意識した指導計画を立て、それぞれの段階に応じた具体的手立てを組み込んだ授業を、発達段階に応じて、経年で指導していくことで義務教育終了段階で社会に出ても活用できる情報活用能力の育成が図れるだろう。

5. 授業仮説

教科書を黒板に写し出すことで、授業の見通しとともに、目標達成の育成が図れる。

6. 第5章 三角形・四角形 (4) 平行線と面積

教科書の視覚化(黒板)という具体的手立てを授業に組み込むことで、図形を観察する力を

7. 単元設定の理由

(1) 教材観

小学校においては、図形要素に着目して観察や作業を通して、図形の学習をしてきている。平行四辺形についても平行四辺形に関する性質だけでなく、平行四辺形の等積変形することで面積を求めることも学習している。中学校では、図形の性質を調べる上で基礎となる見方や考え方、基本的な性質を明らかにし、論証の意義や推論の進め方について理解してきている。

本単元は、「平行線についての性質」や「三角形の合同条件」を根拠にして平行四辺形にかかわる様々な性質を推論し、それらの性質が例外なく成り立つことを演繹的に証明しながら明らかにしていく。物事を論理的に考え、自分の考えを表現する力を高めることのできる単元でもある。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、学習には真面目に取り組む生徒が多いが、数学を苦手とする生徒の割合が多い。思っていることを発表することができるが、数学的な見方・考え方をすることや筋道を立てて考えることに苦手意識を持っている。

しかし、友達の発表や考えを聞いて参考にしようとしたり、教え合うという意識が出てきた。できるだけ操作活動を取り入れるなど生徒への興味関心を高める手立てや思考の手助けとなる配慮が必要となる。

(3) 指導観

本時は平行線の性質を利用し、四角形と同じ面積になる三角形を作図することを課題とする。快打解決のポイントは、平行線の性質を利用した等積変形の十分な理解と作図の仕方にある。平行線内の三角形は、底辺が等しければ形が違っていても面積が等しくなる。このことを作図を通して深める。そして、その性質の活用として、四角形と同じ面積を作図する。このような特性を持つ教材を指導するにあたって、教科書の内容(必要な図)を黒板に写し出すことで、今何をしているのかや作図の順番や方法を示すこ

とが出来、この生徒に単元目標を達成させることができる。

8. 単元目標

平行線と面積の定理を理解し、そのことを利用して多角形を面積を変えずに変形することができる。

9. 評価規準

関心・意欲・態度	見方・考え方	技能	知識・理解
面積を変えずに図形を変形することに関心を持ち、その方法などを調べようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> 平行線を用いると、面積を変えずに三角形が変形できることを見出すことができる。 平行線を用いた多角形の等積変形の方法を考えることができる。 	平行線を用いて、簡単な等積変形を行うことができる。	平行線を用いた等積変形の方法とその意味を理解している。

10. 指導計画（2時間中 1時間目）

時数	情報活用能力の分類	内容	学習内容	関	考	技	知	評価規準
1	交流する	人と対話して考える	等積変形の方法を考える		○			平行線を用いた多角形の等積変形の方法を考えることができる。
2	振り返る		等積変形を行う。			○		平行線を用いて、簡単な等積変形を行うことができる。

11. 本時の目標

平行線と面積の定理を理解し、そのことを利用して多角形を面積を変えずに変形することができる。

12. 本時の評価

【考】 平行線を用いた多角形の等積変形の方法を考えることができる。

13. 本時の展開

情報活用能力の分類	教師の発問・指示	生徒の活動・反応	指導上の留意点
	黒板に写した教科書の図を用いて		

	<p>「3つの三角形の面積が同じだと思いますか。それとも違うと思いますか。」</p> <p>なぜ3つの面積が同じなのか理由を考える。</p>	<p>2択で挙手を行う。</p> <p>個人（2分） グループ（5分）</p>	<p>理由が分からない場合でも、どちらだと思いかで挙手する。</p>
交流する。	<p>前の黒板の図を用いてグループ毎に発表を行う。</p> <p>ポイントをおさえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 三角形の面積＝底辺×高さ÷2 ・ 面積が同じになるためには底辺と高さが同じだとよい。 ・ 底辺は今回は共通である。 <p>なぜ、高さが等しくなるのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2直線が平行なとき、その2直線の距離はどこでも等しい。 <p>→同じ面積の三角形を作図したいとき、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 共通な底辺を見つける。 2. 底辺に平行で頂点を通る直線を引く。 <p>ことが必要である。</p>	<p>写し出している図を用いて、今までの既存の知識で発表をする。（全6グループ）</p> <p>疑問などは質問を行う。</p>	<p>同じ考えでも自分たちの言葉で話すようにする。</p> <p>【考】平行線を用いた多角形の等積変形の方法を考えることができる。</p> <p>実際の図が黒板にあるので活用をする。</p>

1 4. 実践授業を終えて成果と課題

実際に、情報活用能力の育成までできたかは、疑問が残る。しかし、プロジェクターを用いて教科書を黒板に写し出すことで、生徒が自分の手元にある教科書と同じものが黒板にあるので前を向きながら考えることができた。

情報活用能力を育成していくのは、教室という場だけでは限界があるようにも思う。

情報活用能力育成のための授業研学習指導案

第二学年 数学科学習指導案

箕面市立第六中学校

指導者 塩田和也

- 1 日時 平成25年2月7日(木)第6校時目
- 2 学年・クラス 2年1組(34名)
- 3 場所 2年1組(南館3階)
- 4 研究仮説 情報活用の段階を意識した指導計画を立て、それぞれの段階に応じた具体的手立てを組み込んだ授業を、発達段階に応じて、経年で指導していくことで義務教育終了段階で社会に出ても活用できる情報教育能力の育成が図れるだろう。
- 5 授業仮説 ペアで実験データを集計し、グラフ化を行うという具体的手立てを行うことで、データを編集する力の育成が図れるだろう。
- 6 単元名 確率
- 7 単元設定の理由
 - 教材観 降水確率や宝くじ、サイコロやじゃんけんなど、確率を用いて不確定な事象をとらえようとすることは、日常生活や社会の中に数多く存在する。このことから、生徒にとっては比較的興味・関心がわきやすい単元である。身近なものとのつながりを大事にしながら指導していきたい。
 - 生徒観 明るく元気な学級ではあるが、私語が多く自由に行動する生徒が多い。授業にのると積極的に行動する面がある。実験などは楽しく活動できると思うので、うまくまとめながら授業を行いたい。
 - 指導観 確率はまだ授業で勉強していないので、簡単に説明する必要がある。ペアで活動させることにより、楽しく確率の実験ができるようにしたい。2人が協力しないと成り立たない活動のため、コミュニケーション能力の育成を図ることができ、最終的なデータはすべてのデータを集計するので、責任を持って活動させたい。実験データを集計するという具体的手立てを授業に組み込むことで、結果を目で見ることができ、より一層確率への理解と、協力して求めたという達成感を味あわせたい。
- 8 単元目標 確率に関して興味を持つ。
実験を通して確率の理解を深める。
- 9 評価基準
 - 関心・意欲・態度 ペアで協力し実験をし、記録をしているかどうか。
 - 数学的な(見方や)考え方 いくつデータを取れば理想の確率になるのかを予想できる。

1 0 指導計画

時数	情報活用 の能力の 分類	内容	学習活動	関	考	表	知	評価基準
1/4	あつめる	様々なメディアや 人からの情報収集 能力	各ジャンルに分かれて ペアで実験を行いデー タをとる	○				データをしっかり記録し ている
1/4	とらえる	情報の選択・分析	実験のデータから確率 を予想する		○			ワークシートに結果を 予想している
1/4	まとめる	情報の加工と編集	データを結果が見やす いようにグラフ化する			○		
1/4	振り返る	自分の情報活用 について振り返る	自分たちの予想と実験 結果と理論値を比較す る		○			自分たちの結果と比較 し、確率の性質を理解 している

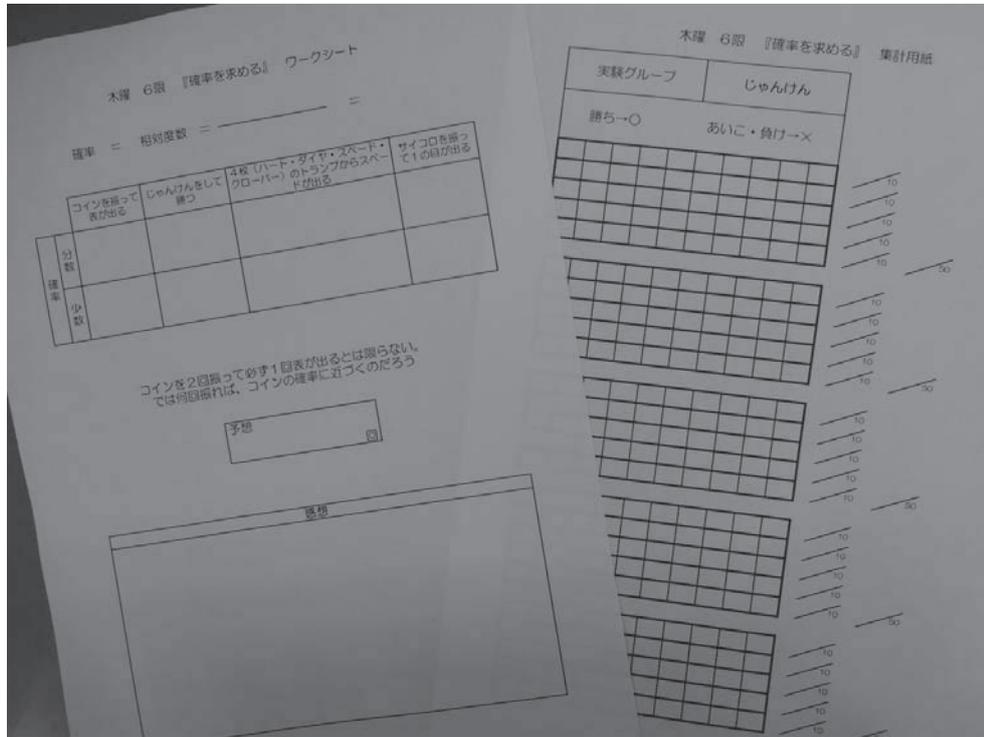
1 1 本時の目標 確率の性質を知ってもらうと同時に、データの収集とそれをまとめる力を身につける。

1 2 本時の展開

段階	活動の内容	指導上の留意点
導入(10分)	本時の活動内容を聞く。 確率の意味・求め方を理解する。 ワークシートに従い、コイン・じゃんけん・トランプ・サイコロの確率を考える。 実験方法を理解する。	・あまり説明に時間をかけすぎず、簡潔に説明する。 ・実験の説明する際に、協力しないとできないことを理解させ、意識させる。
展開(25分) あつめる・とらえる	実験を開始する。 ペアで4つの実験を行う。各5分ずつ 1、コインで表が出る確率 コインを投げて表が出た回数を記録する。 2、じゃんけん 3枚のじゃんけんカードからお互い1枚引き、勝ち負けを判断し記録する。 3、トランプでスペードを引き当てる確率 4枚のトランプ(ハート・ダイヤ・スペード・クローバー)から1枚引きスペードを引くかどうか記録する	・こまかく机間指導しつつ、実験が活発になるように促す。時間を測り厳守させる。実験の交代は円滑にいくように説明をきちんとしとく。 ・コインは同じ投げ方をすること、じゃんけんやトランプのカードは折り曲げないことを十分に注意する。 ・相対度数は丁寧に計算するように指導する。
	4、サイコロで1の目が出る確率 サイコロを振って1の目が出た回数を記録する。	

<p>まとめ(15分) まとめる・振り返る</p>	<p>各実験結果の集計を行う。</p> <p>確率が回数が増えるごとに、収束していくことを理解する。</p> <p>みんなの実験結果を集約して共有することにより、達成感を感じる。</p>	<p>・集計では時間がかかるので、集計の流れを見せつつ、結果をグラフにしていきたい。</p> <p>・時間がある限り4つすべての実験のグラフ化を行いたい、時間が足りない場合はトランプで行う。</p>
-------------------------------	---	---

1.3 板書計画・ワークシート



1.4 実践授業を終えて成果と課題

今回は2～3時数を予定していた授業を1時間にまとめたので、十分なまとめや活動が出来なかった。しかし、単純な作業でも生徒は楽しく実験データを収集しており、自分たちの実験結果を見て感動していた。この授業を通して、みんなでやれば多くの情報が集められることと、膨大なデータから必要な数字を求めること、そして数字では理解しにくい、グラフ化することで結果が理解しやすいことを学んでくれたと思う。今回は時間が少なかったため、グラフ化は私が行ったが、実験データをグラフ化するところまで生徒にさせていけば、より情報活用能力の育成につながっていたと思う。

